

2024年度決算説明会

2025年5月19日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

<お問い合わせ先>

取締役専務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

1. トピックス

2. 2024年度 決算概要

3. 2025年度 業績予想

4. 事業別 業績概要

5. 付属資料

社長ごあいさつ

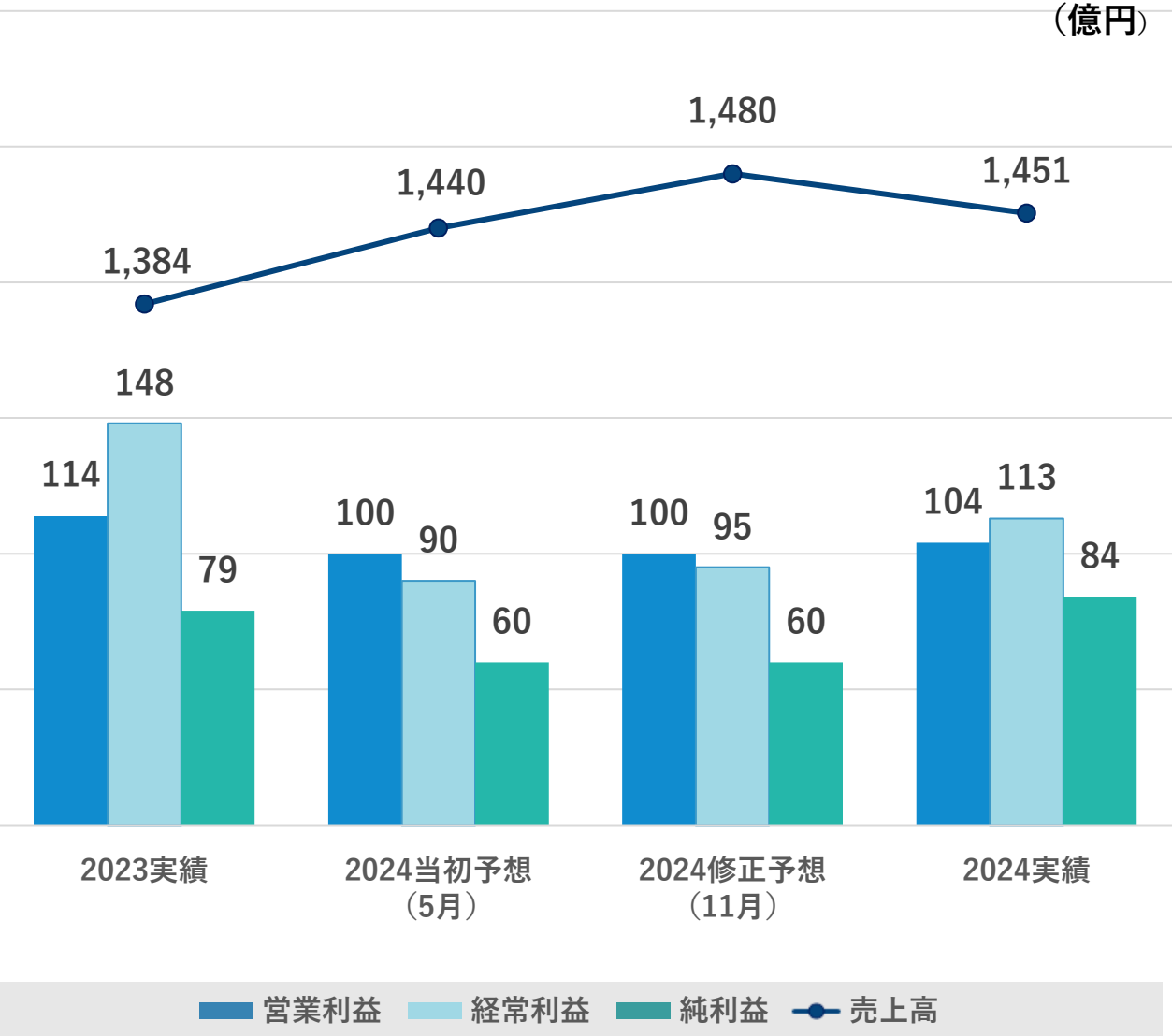
代表取締役社長 大久保 浩

Vision 2030 目標実現への道程

独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。



2024年度決算 連結業績



● 売上高 **1,451 億円**
(前年同期比 67 億円増)

■ 営業利益 **104 億円**
(前年同期比 10 億円減)

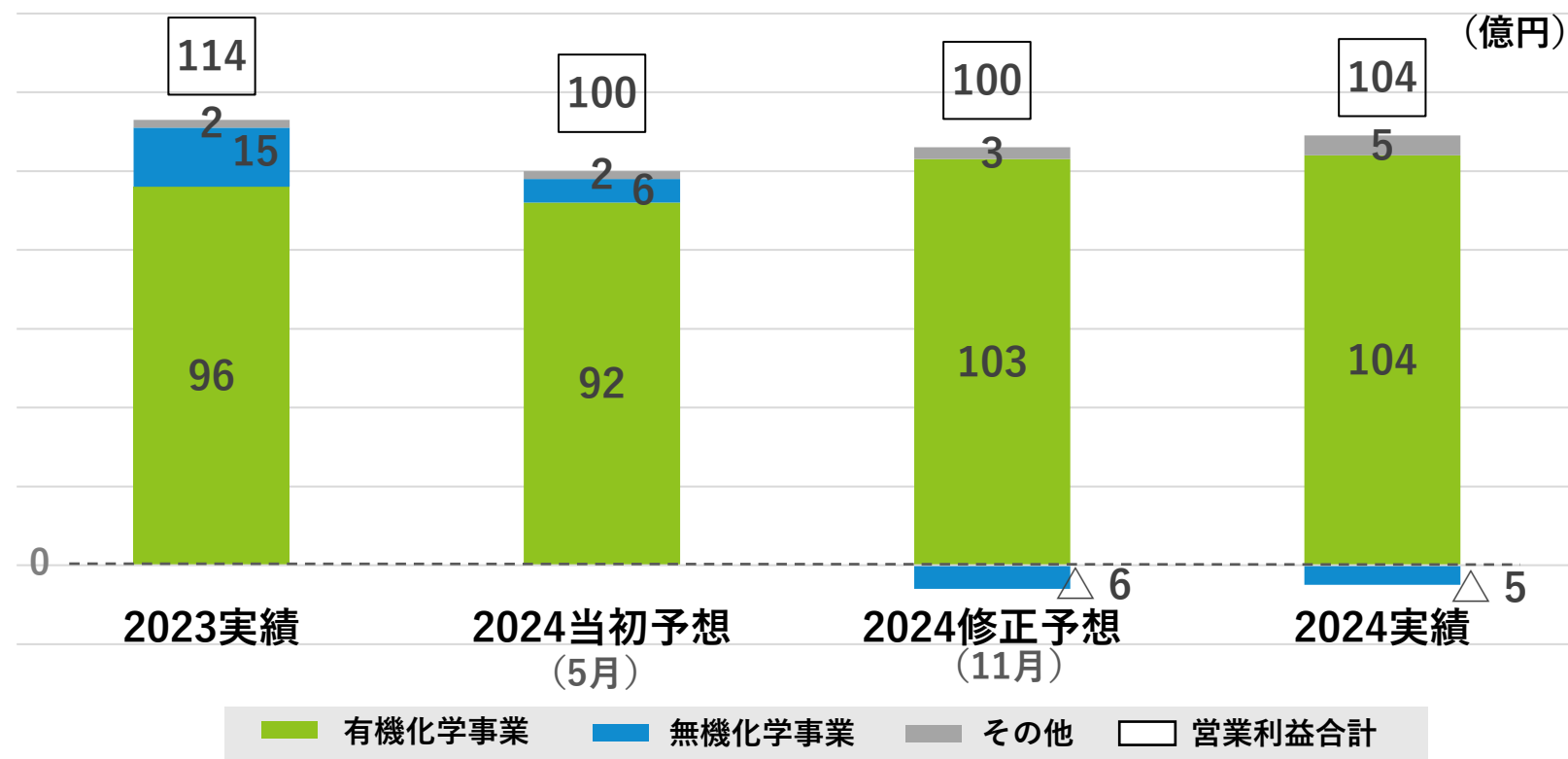
■ 経常利益 **113 億円**
(前年同期比 34 億円減)

■ 純利益 **84 億円**
(前年同期比 4 億円増)

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2023実績	145.6	157.0
2024当初予想	148.0	158.0
2024修正予想	150.2	162.0
2024実績	152.4	162.8

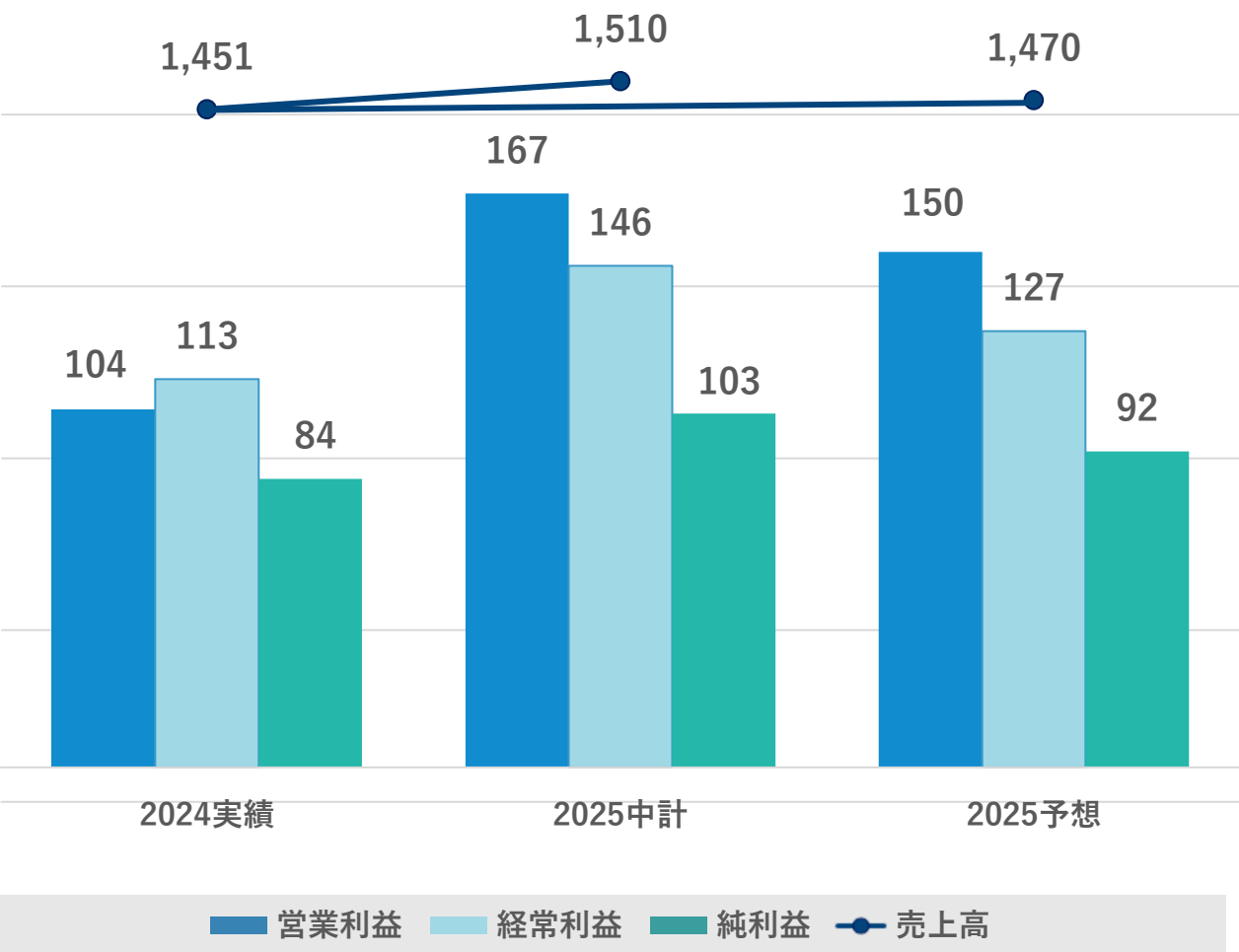
2024年度 事業別営業利益

- ◆有機化学事業は、農薬が欧州において湿潤な天候により殺菌剤の需要が増加したことや、殺虫剤の需要も堅調に推移。ブラジルでは殺菌剤が復調の兆し。
- ◆無機化学事業は、電子部品材料で海外向けが伸長したが、ファインケミカル（酸化チタン）は当初予想よりも市況が落ち込み、収益が悪化。



2025年度 通期連結業績予想

2025予想には、米国関税引き上げによる影響は織り込んでおりません。(億円)

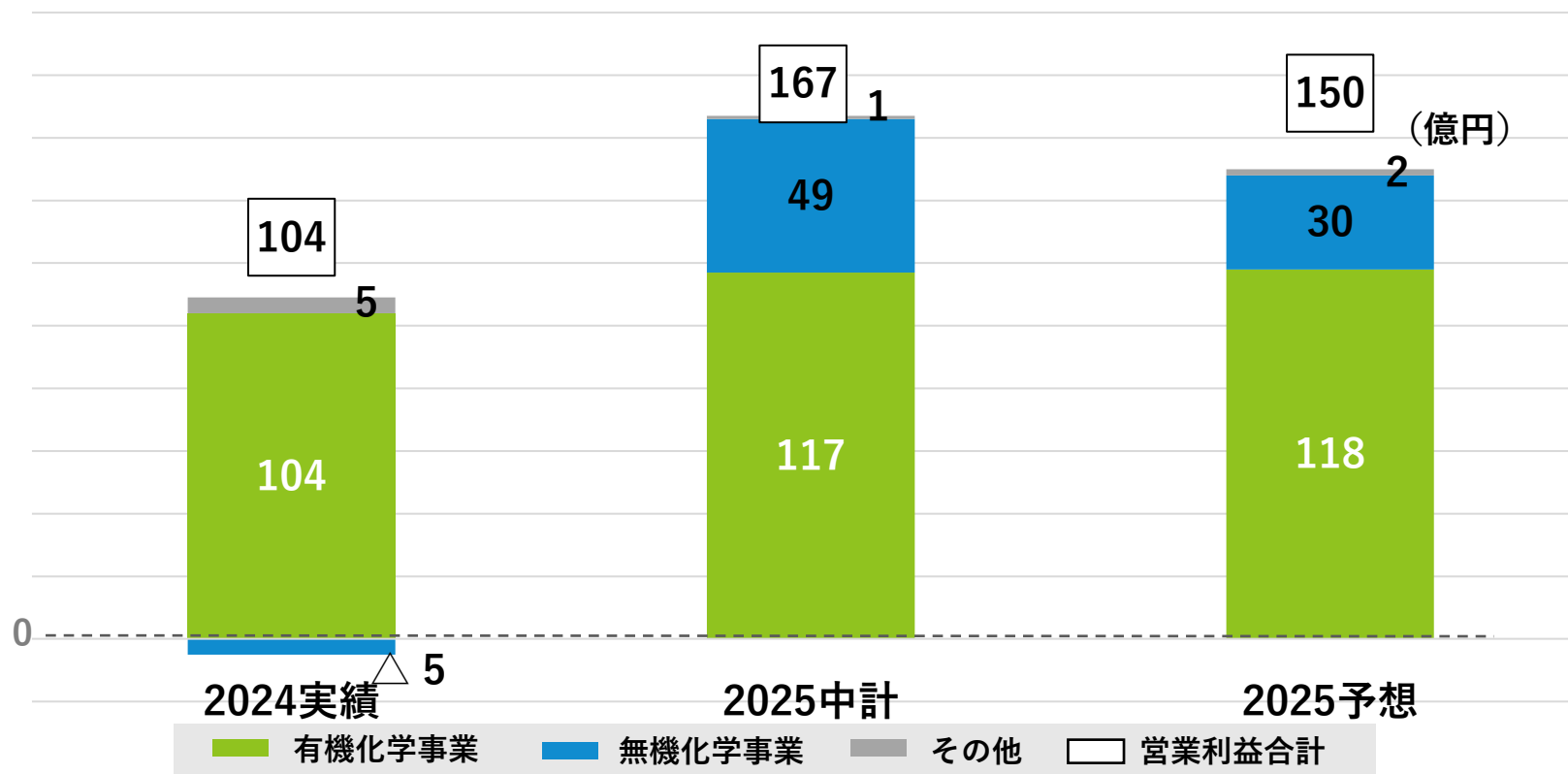


- ◆有機化学事業は、農薬は米州の除草剤やアジア向け殺虫剤を中心に販売が増加し、前年度から増収の見通し。
- ◆無機化学事業は、ファインケミカル（酸化チタン）は在庫の適正化を目的とした拡販がなくなることから、前年度より減収するも増益の見通し。

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2024実績	152.4	162.8
2025中計	140.0	150.0
2025予想	140.0	160.0

2025年度 通期業績予想事業別営業利益

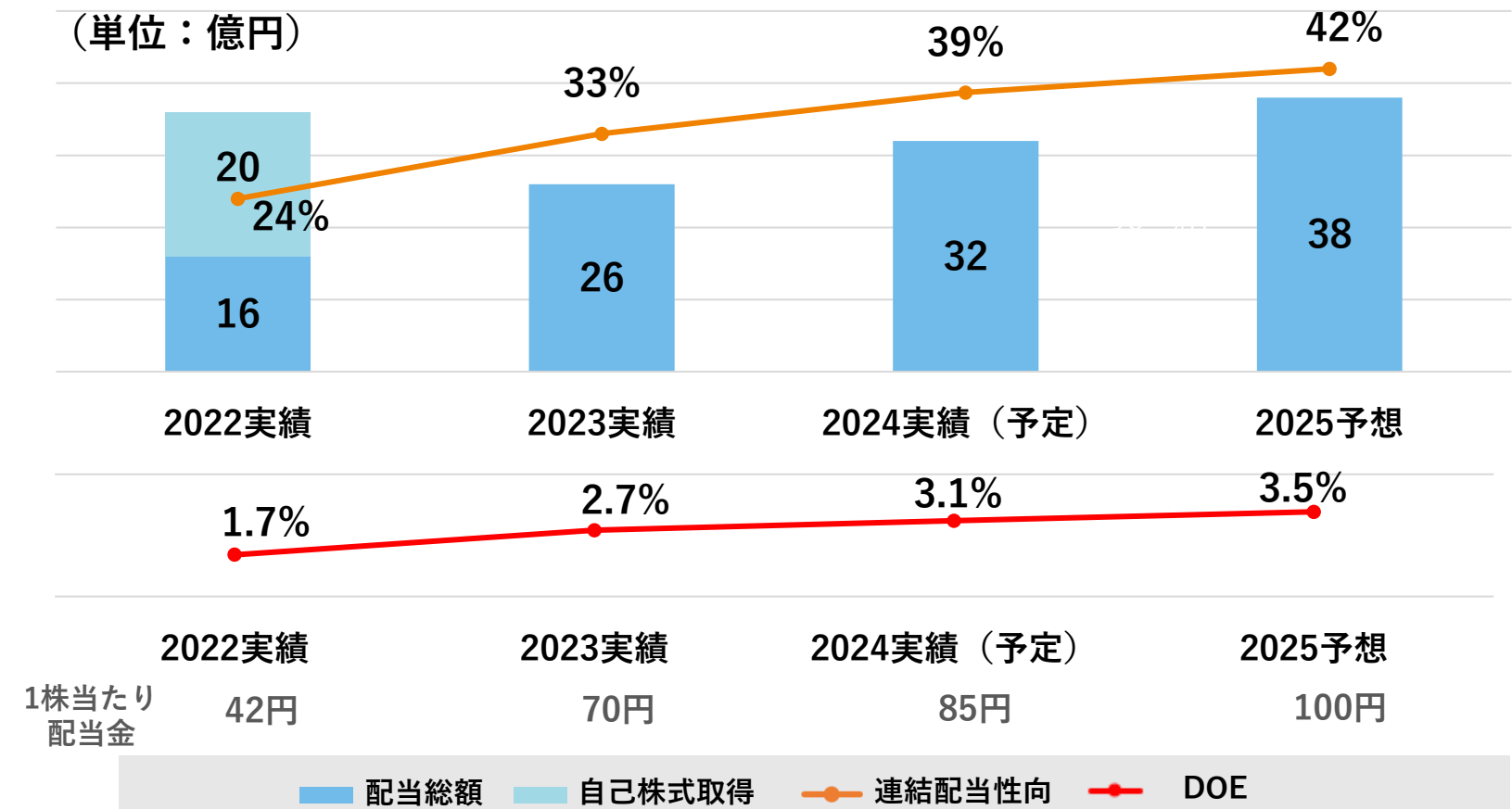
- ◆有機化学事業は、農薬は欧州で殺菌剤、米州で除草剤の販売が堅調に推移する見通し。成長戦略剤では、除草剤トルピラレートが米州で力強く伸び、欧州での一時的な農薬登録維持のための費用増を吸収する見通し。ヘルスケアは今期、黒字転換の見通し。
- ◆無機化学事業は、電子部品材料が国内外で堅調の見通し。ファインケミカル(酸化チタン)は高収益品へのシフトや原燃料価格下落により、前年度よりも収益改善の見通し。



株主還元方針

◆2025年2月に株主還元方針を変更し、
DOE（連結株主資本配当率）3%の下限配当実施※を発表
※対象期間は中期経営計画「Vision 2030 Stage II」（2024～2026年度）

◆2025年度配当予想で、中間配当を計画（1株当たり30円）



株主還元方針

- 企業価値を高めるとともに、株主のみなさまへ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付けています。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案して業績に応じた安定的な配当の継続を基本に考えています。
- 機動的に自己株式取得も行います。
- 中期経営計画「Vision 2030 Stage II」では、最終年度（2026年度）に向けて連結配当性向40%を目標とします。
- 中期経営計画「Vision 2030 Stage II」（2024～2026年度）の間中は、DOE（連結株主資本配当率）3%を下限として配当を実施します。

- ◆2025年度に営業黒字化を見込む
- ◆塩素法酸化チタンを核として持続的に利益を生む事業へ転換
- ◆電子材料、機能性色材を成長ドライバーとし、付加価値の高い製品を開発・供給することで、利益拡大を目指す

PBR1倍以上に向けた取り組み

◆収益力向上に向けた取り組み 「すべての事業を収益の柱へ」

農薬/成長戦略剤の拡販、コスト低減のためのひょうご小野研究センターが稼働
動物用医薬品/パノクエルの国内外での拡販
無機化学事業構造改革の実行

◆株主還元の強化

DOE（連結株主資本配当率）3%の下限配当実施を発表（期間：2024～26年度）
2025年度配当予想は前年度より15円増配し1株当たり100円、中間配当実施を計画

◆ROIC経営推進

「資本コスト経営推進プロジェクト」の推進

2024年度 決算概要

為替レート	2023実績	2024実績
(円/USD)	145.6	152.4
(円/EUR)	157.0	162.8

2024年度 決算概要（対前年）

- ◆2024年度実績は、売上高は増収だが、ファインケミカル（酸化チタン）の収益が悪化し、営業利益・経常利益は減益。純利益は昨年計上した固定資産の減損損失がなくなったことから増益。
- ◆配当は、前年度実績70円/株から15円/株増配となる85円/株を定時株主総会に付議。
(億円)

	2023 (実績)	2024 (実績)	増減
売上高	1,384	1,451	67
営業利益	114	104	△10
経常利益	148	113	△34
純利益	79	84	4
配当（円/株）	70	85	15

2024予想※	差異
1,480	△28
100	4
95	18
60	24
85	—

※2024予想の内、売上高、営業利益、経常利益、純利益は2024年11月発表予想。
配当は2025年2月に発表した数値を記載。

2024年度 決算概要（対当初予想）

- ◆2024年度実績は、当初予想に比べて増収増益。
- ◆ファインケミカル（酸化チタン）は国内外での需要低迷に加え、安価な中国品の市場流入の影響で収益が悪化したものの、農薬は海外販売が好調で増収増益。

（億円）

	2024 （当初予想）	2024 （実績）	増減
売上高	1,440	1,451	11
営業利益	100	104	4
経常利益	90	113	23
純利益	60	84	24
配当（円/株）	70	85	15

2024年度 事業別売上高・営業利益（対前年）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬は、欧州において湿潤な天候により殺菌剤の需要が増加、殺虫剤の販売も堅調。
- ◆ 製造コストの改善も寄与し、増益。

<無機化学事業>

- ◆ 電子材料の売上はアジア向け販売が好調。
- ◆ ファインケミカル（酸化チタン）は国内外で市況が低迷。在庫適正化のため、アジア向けで拡販を実施したことで増収となるものの収益は悪化。
- ◆ 在庫適正化のため生産調整を行ったことにより固定費負担が増加したことも影響し、減益。

（億円）

		2023 （実績）	2024 （実績）	増減
有機化学事業	売上高	671	677	6
	営業利益	96	104	8
無機化学事業	売上高	680	732	52
	営業利益	15	△5	△20
その他	売上高	32	41	9
	営業利益	2	5	2
合計	売上高	1,384	1,451	67
	営業利益	114	104	△10

2024年度 事業別売上高・営業利益（対当初予想）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬は欧州において湿潤な天候により殺菌剤の需要が増加、殺虫剤の販売も堅調。
- ◆ 米州ではブラジル向け殺菌剤の販売が回復しつつあるものの、前年度好調であった成長戦略剤チアフェナシルが流通在庫の問題で販売低迷。

<無機化学事業>

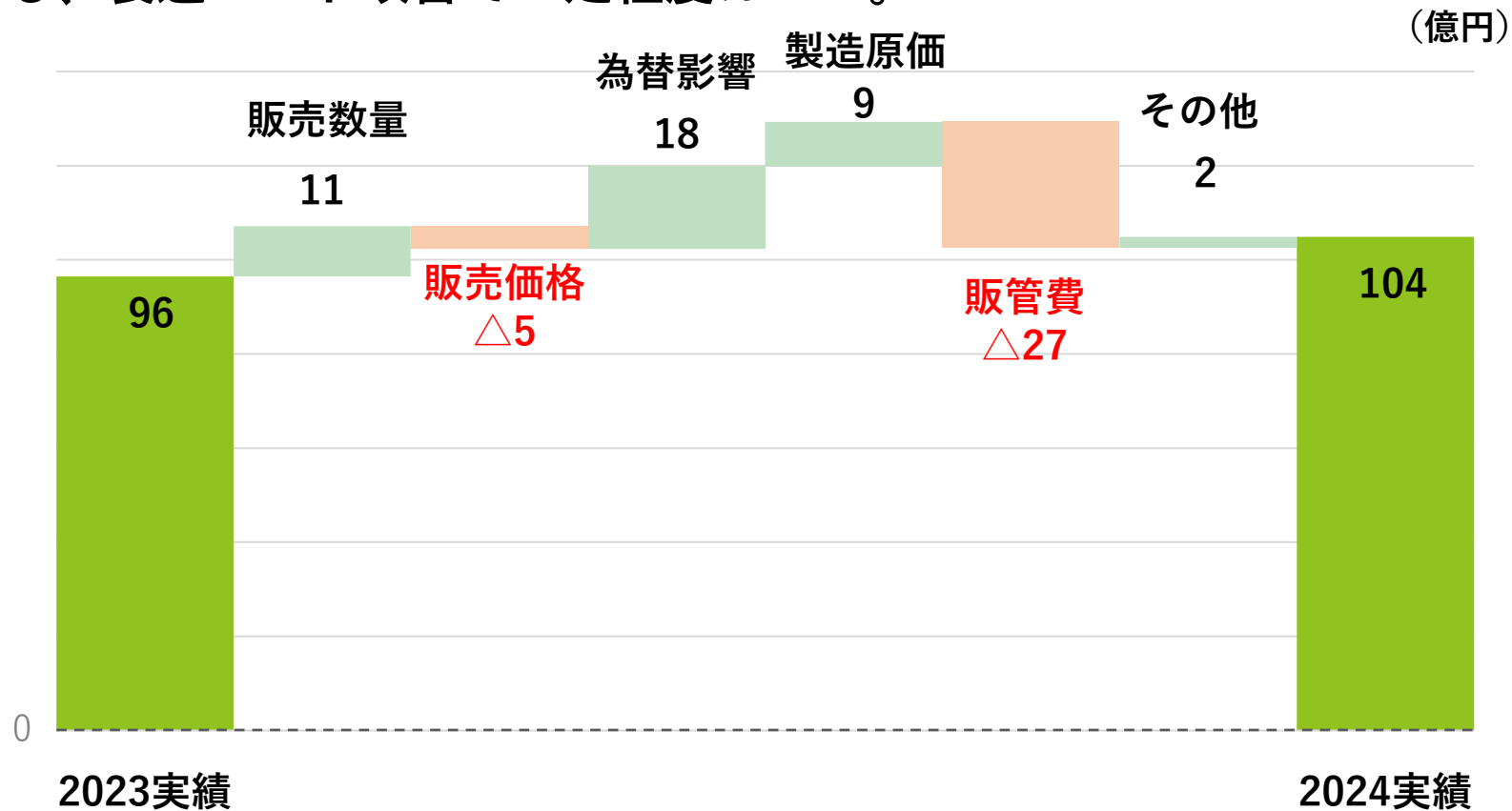
- ◆ 電子材料の売上はアジア向け販売が好調。
- ◆ ファインケミカル(酸化チタン) は国内外で市況が低迷。安価な中国品が流入し、収益が悪化。
- ◆ ファインケミカル(酸化チタン) の在庫適正化のため生産調整を行ったことにより固定費負担が増加したことも影響し、減益。

(億円)

		2024 (当初予想)	2024 (実績)	増減
有機化学事業	売上高	651	677	26
	営業利益	92	104	12
無機化学事業	売上高	756	732	△23
	営業利益	6	△5	△11
その他	売上高	32	41	9
	営業利益	2	5	3
合計	売上高	1,440	1,451	11
	営業利益	100	104	4

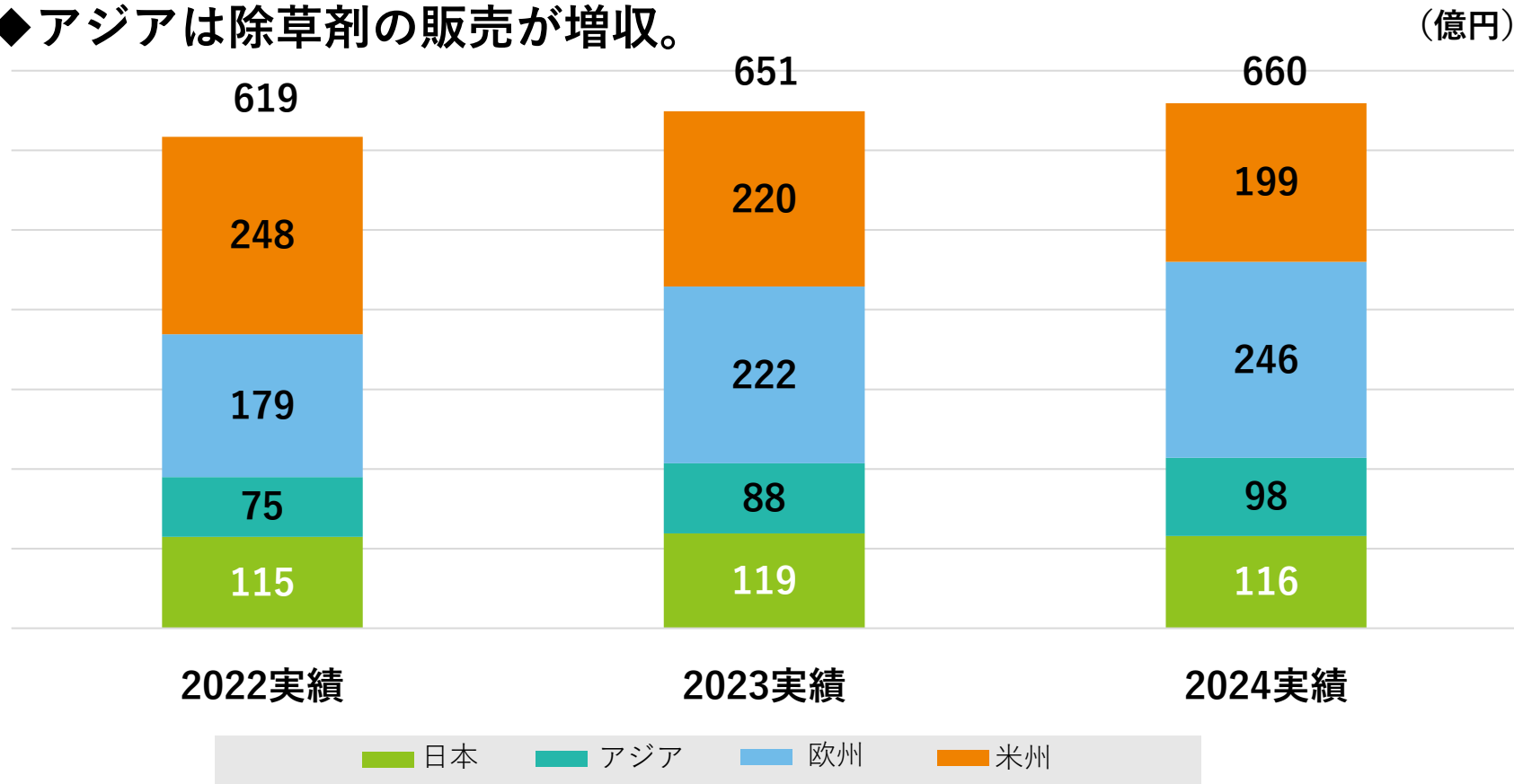
有機化学事業 営業利益増減要因

- ◆欧州向け農薬販売が堅調で、為替も想定より円安に推移したことが利益に寄与。
- ◆ジェネリック品対策の値下げや研究開発費等の増加が利益を圧迫するも、製造コスト改善で一定程度カバー。



農薬 地域別販売実績

- ◆欧州は湿潤な天候により、殺菌剤が増加。また殺虫剤も堅調に推移。
- ◆米州は、ブラジルで殺菌剤の需要が緩やかに回復するも、北米で除草剤が在庫調整の影響で減収。
- ◆アジアは除草剤の販売が増収。

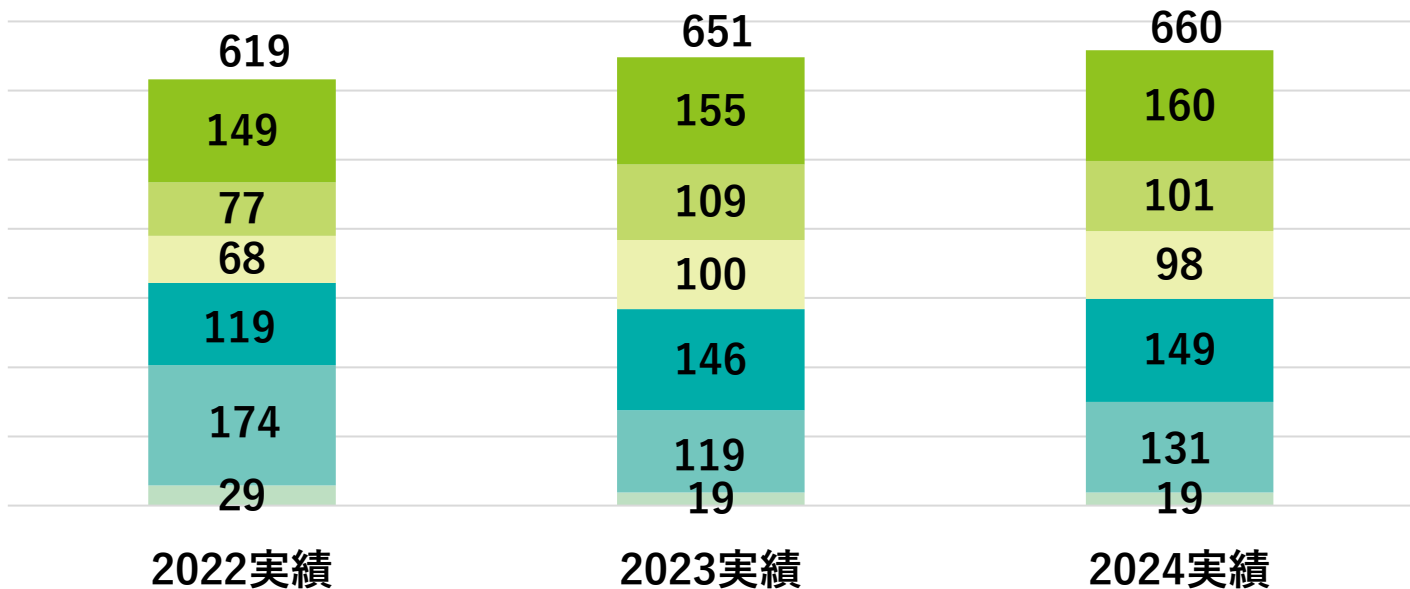


※アジアには大洋州を含む。

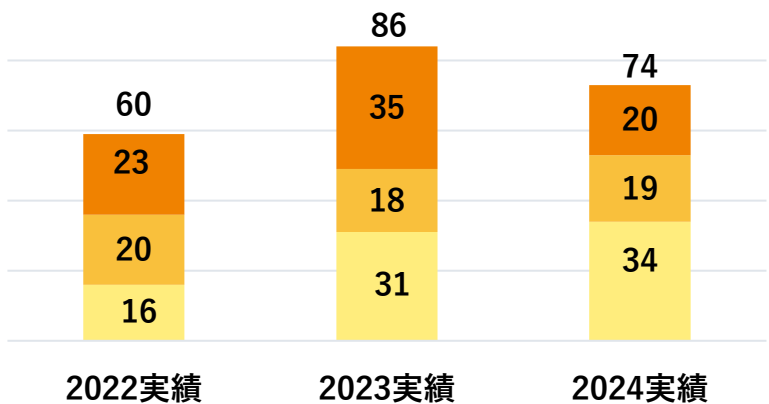
農薬 剤別販売実績

- ◆殺菌剤フルアジナムはブラジル向け販売が緩やかに回復。
- ◆殺菌剤シアゾファミドは欧州で増収。
- ◆成長戦略3剤は、除草剤チアフェナシルは在庫調整で大幅減。
除草剤トルピラレートは米州で増加。

(億円)



成長戦略3剤 (億円)



トルピラレート シクラニリプロール
チアフェナシル

無機化学事業のサブセグメント区分変更

無機化学事業構造改革の一環で、新しく見直した製品ポートフォリオに基づいた事業ドメインに再編

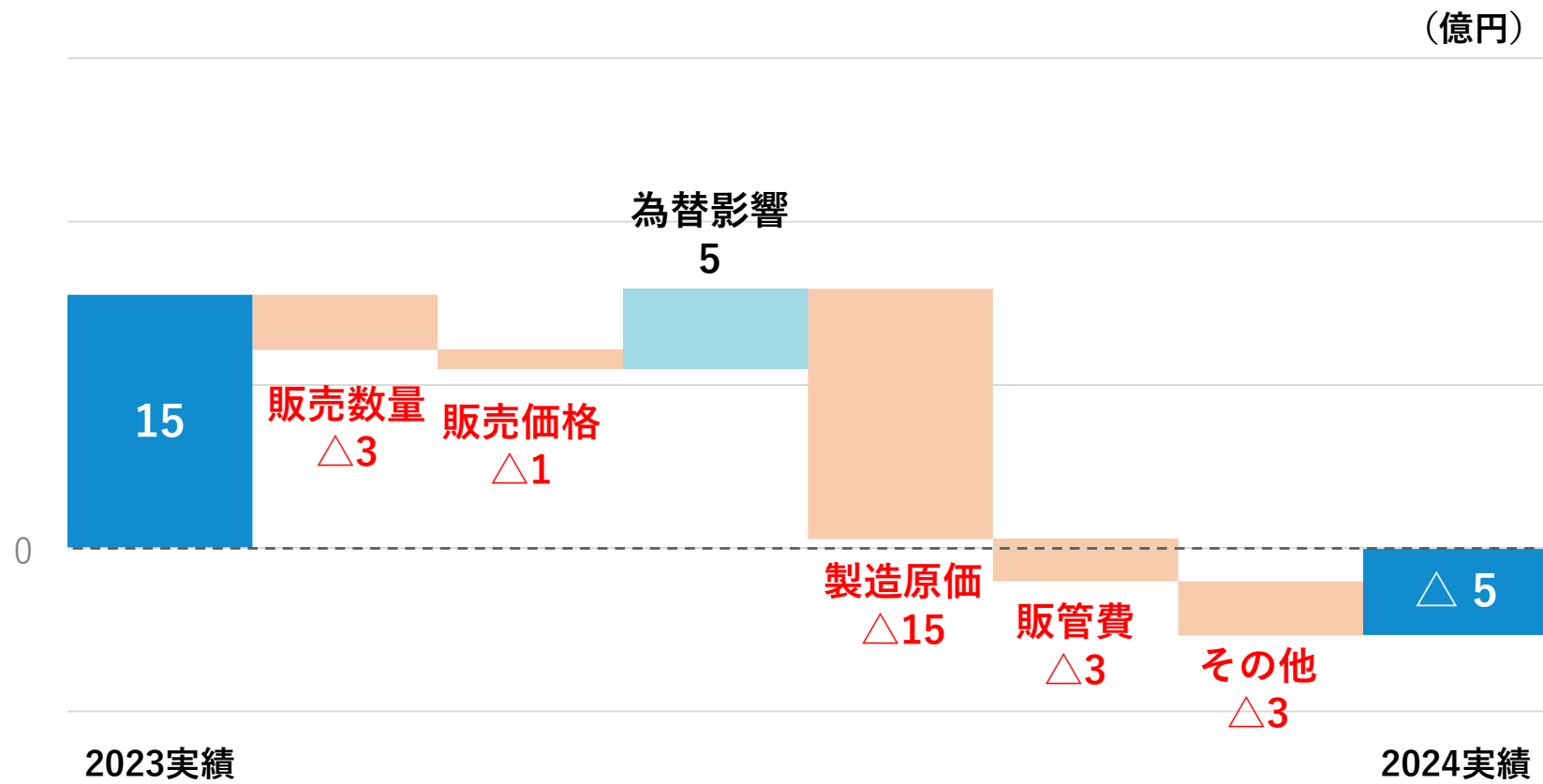
無機化学事業

2025年度予想から新サブセグメント基準で集約しております。過年度の予想、実績数値及び Vision 2030 Stage II（FY2024-26）の数値は、以下の基準で読み換えを行っております。

旧サブセグメント	新サブセグメント
機能性材料	電子材料
	機能性色材
酸化チタン	ファインケミカル

無機化学事業 営業利益増減要因

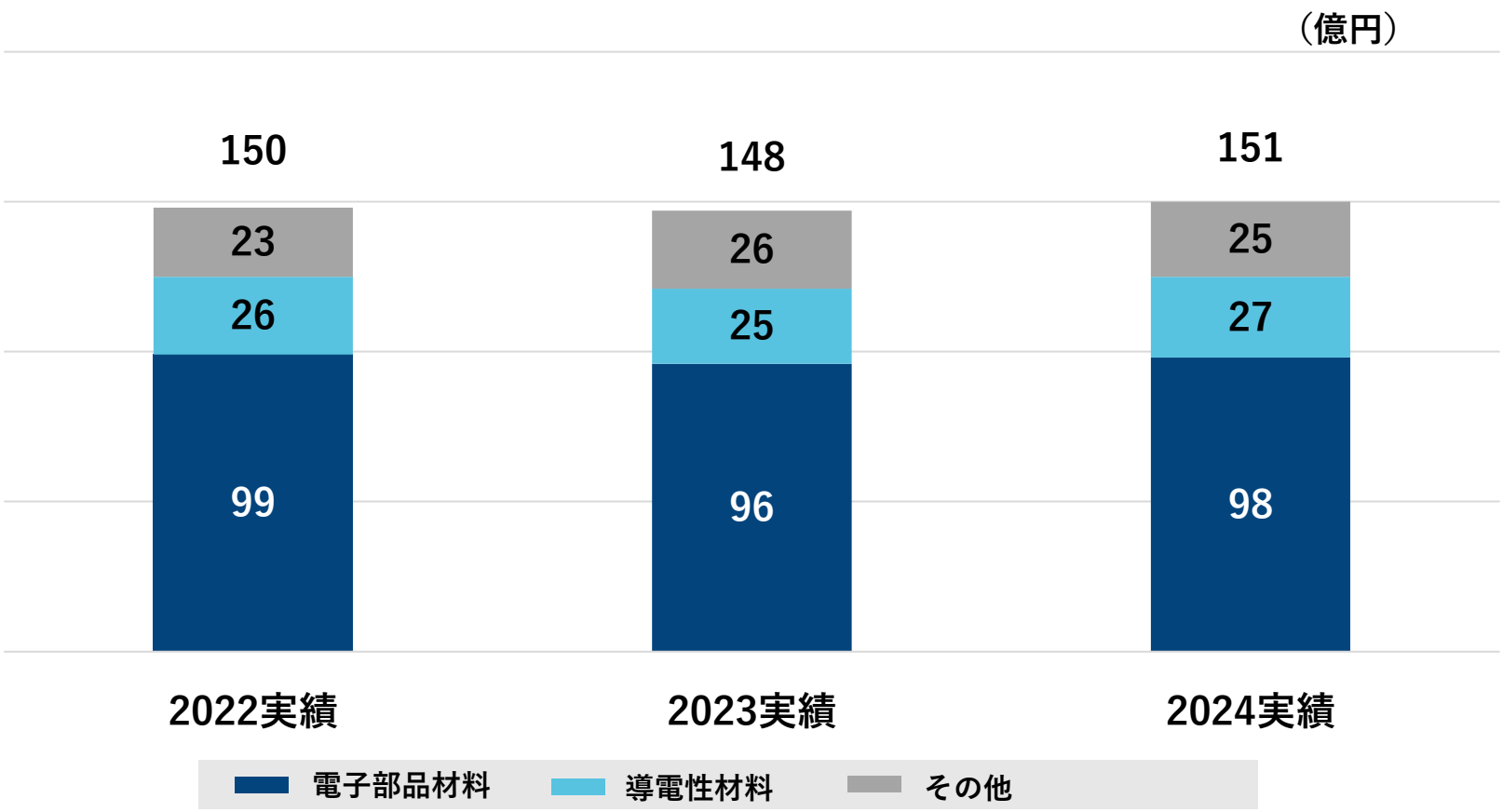
- ◆電子部品材料は海外向けが好調。
- ◆ファインケミカル(酸化チタン) は在庫適正化のため生産調整を行い収益が悪化。



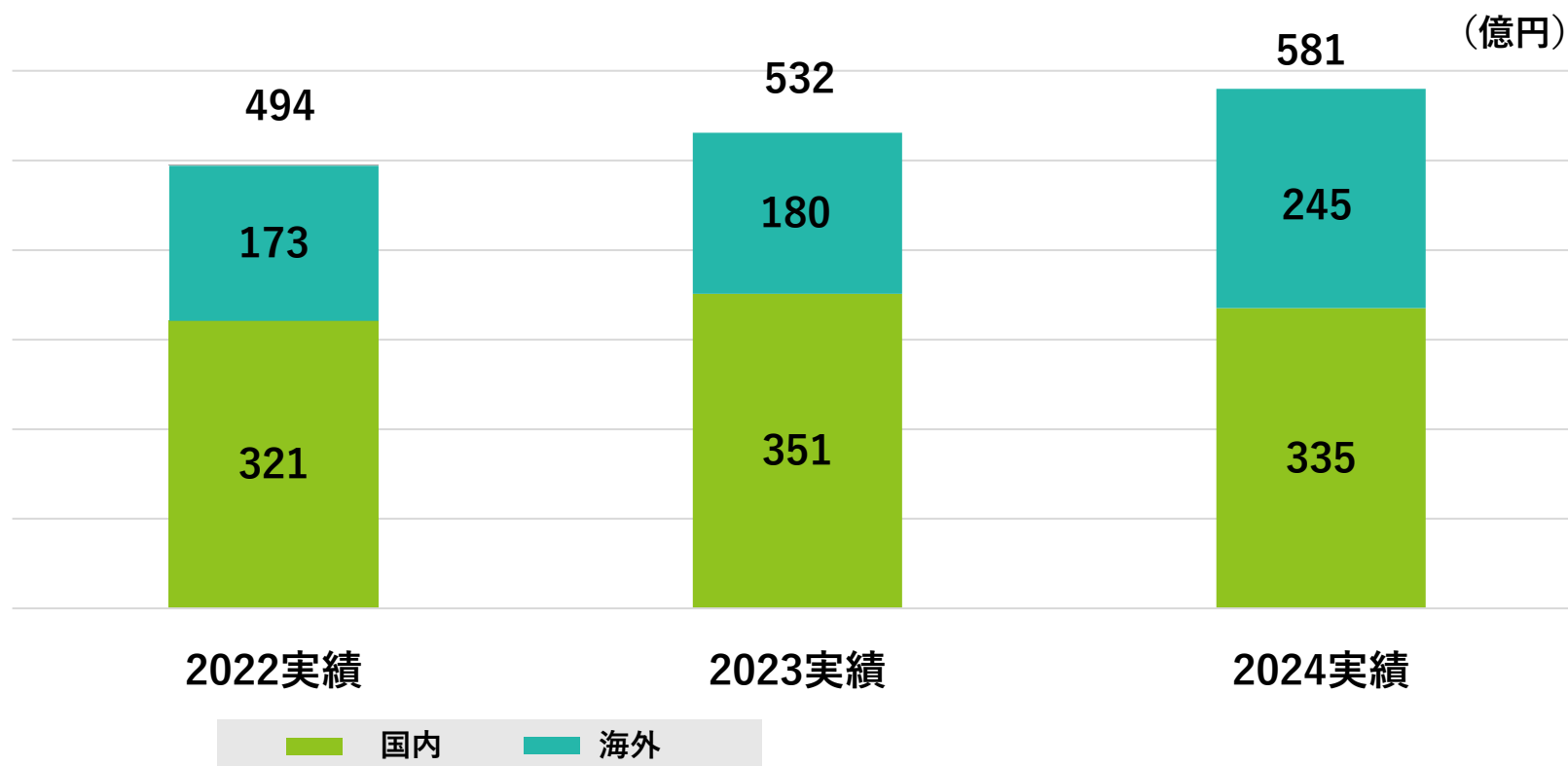
電子材料・機能性色材 材料別販売実績

無機化学事業

- ◆電子部品材料は海外向け販売が好調。
- ◆導電性材料販売も海外を中心に堅調。



- ◆国内販売は建築用途向けを中心に需要が低迷。
- ◆輸出販売は在庫の適正化を目的にアジア向けで拡販を実施したことで売上が増加。



営業外損益・特別損益

<営業外損益>

◆前年度は多額の為替差益を計上

(億円)

科目	2023 (実績)	2024 (実績)	増減
金融収支	△1	△0	1
為替差損益	26	0	△26
持分法利益	5	15	9
その他	3	△5	△8
合計	33	9	△24

<特別損益>

◆前年度は無機化学事業の構造改革に伴う固定資産減損損失67億円を計上

(億円)

科目	2023 (実績)	2024 (実績)	増減
固定資産処分損	△5	△5	0
減損損失	△69	△1	68
受取和解金	20	—	△20
その他	0	0	△0
合計	△53	△5	47

2024年度末 貸借対照表

- ◆当期末総資産は、前年度末比+7億円の2,250億円。現預金が+49億円、棚卸資産が△85億円、売掛債権が△14億円、有形固定資産が+50億円などによるもの。
- ◆有利子負債は前年度末比+18億円の722億円。
- ◆純資産は、利益剰余金が前年度末比+57億円などにより+83億円の1,144億円。

(億円)

科目	2024年 3月末	2025年 3月末	増減
流動資産	1,611	1,548	△63
現預金	199	249	49
売掛債権	444	430	△14
棚卸資産	913	828	△85
その他	53	39	△13
固定資産	631	702	71
有形固定資産	415	465	50
無形固定資産	20	18	△1
投資その他資産	195	218	22
資産合計	2,243	2,250	7

科目	2024年 3月末	2025年 3月末	増減
負債	1,182	1,106	△75
買掛債務	229	161	△68
有利子負債	703	722	18
引当金	15	10	△5
退職給付に係る負債	120	100	△19
その他	113	112	△1
純資産	1,061	1,144	83
株主資本	1,019	1,076	57
その他	41	67	25
負債・純資産合計	2,243	2,250	7

2024年度末 キャッシュフロー計算書

◆棚卸資産の減少などで営業キャッシュフローが183億円となり、フリー・キャッシュフローは69億円。

	2023 (実績)	2024 (実績)	増減
営業キャッシュフロー	△28	183	211
税金等調整前当期純利益	95	108	12
減価償却費及びその他償却費	53	57	4
減損損失	69	1	△68
運転資金等	△236	38	275
法人税等支払額	△9	△21	△12
投資キャッシュフロー	△70	△114	△43
固定資産の取得・売却	△55	△98	△42
投資有価証券の取得	△0	△4	△3
投融資資金等	△14	△11	2
財務キャッシュフロー	115	△23	138
借入金・社債増減等	131	3	△127
自己株式純増減額	△0	△0	△0
配当金支払額	△16	△26	△10
現金及び現金同等物に係る換算額	6	3	△2
現金及び現金同等物の増減額	23	49	26
現金及び現金同等物の期末残高	199	249	49

2025年度 業績予想

為替レート	2024実績	2025予想
(円/USD)	152.4	140.0
(円/EUR)	162.8	160.0

2025年度 業績予想

◆2025年度予想は、前年度に比べて増収増益

◆前年度に比べて無機化学事業の収益が改善（黒字転換）する見通し。

(億円)

	2024 (実績)	2025 (中計)	2025 (予想)	対前年 増減	対中計 増減
売上高	1,451	1,510	1,470	18	△40
営業利益	104	167	150	45	△17
経常利益	113	146	127	13	△19
純利益	84	103	92	7	△11

2025年度 業績予想（事業別売上高・営業利益）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬は欧州で殺菌剤、米州で除草剤の販売が堅調に推移する見通し。成長戦略剤では、除草剤トルピラレートが米州で力強く伸びる見通し。
- ◆ 動物用医薬品などのヘルスケア事業の売上は、前年度を上回り、今期、営業黒字化の見通し。

<無機化学事業>

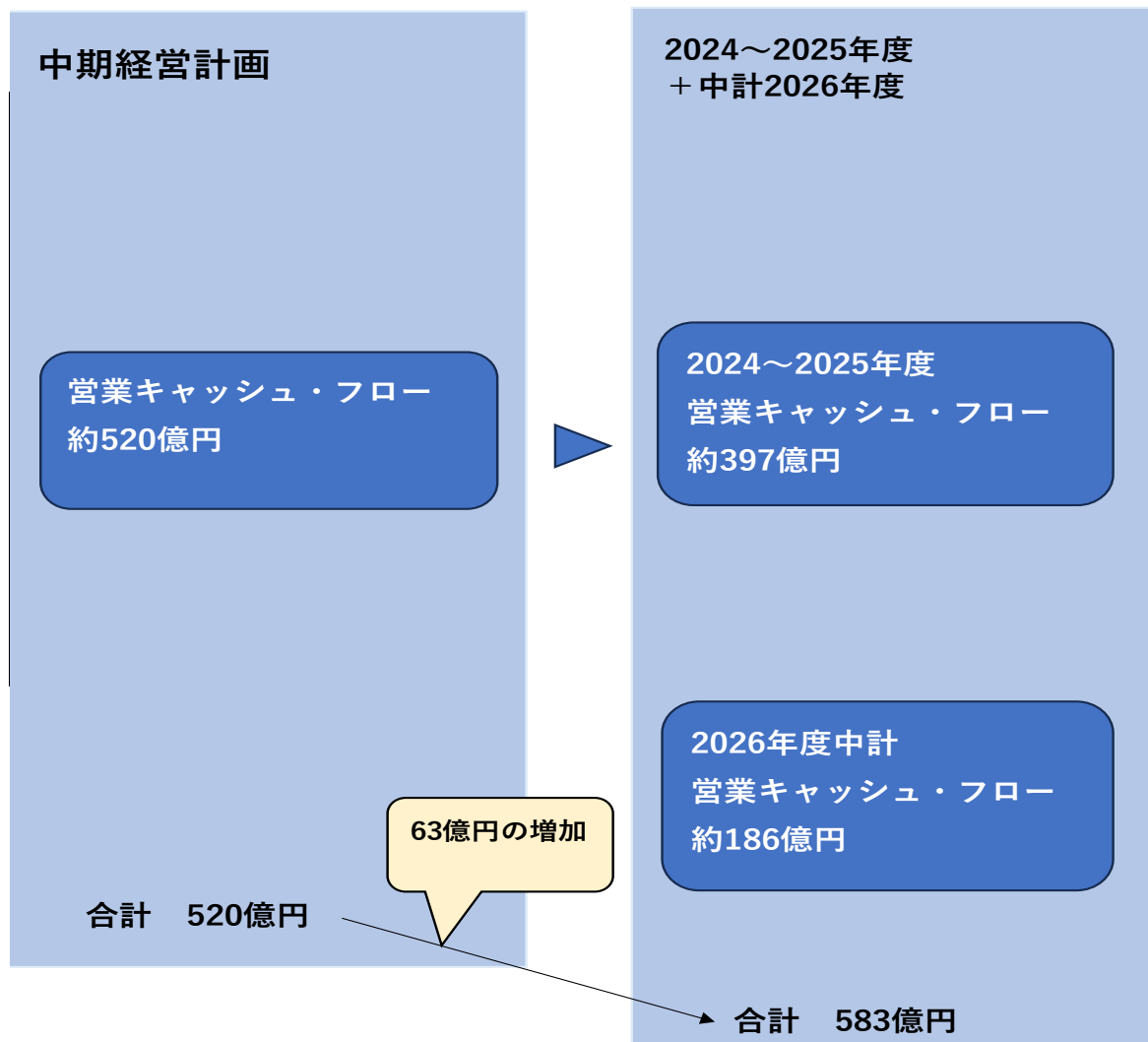
- ◆ 無機化学事業は営業黒字転換を見込む。
- ◆ 電子材料は国内外で堅調な販売を見込む。
- ◆ 機能性色材は導電性材料販売が前年度を上回る見通し。
- ◆ ファインケミカル（酸化チタン）はアジア向け拡販がなくなることや原燃料価格の下落により、収益が改善する見通し。

（億円）

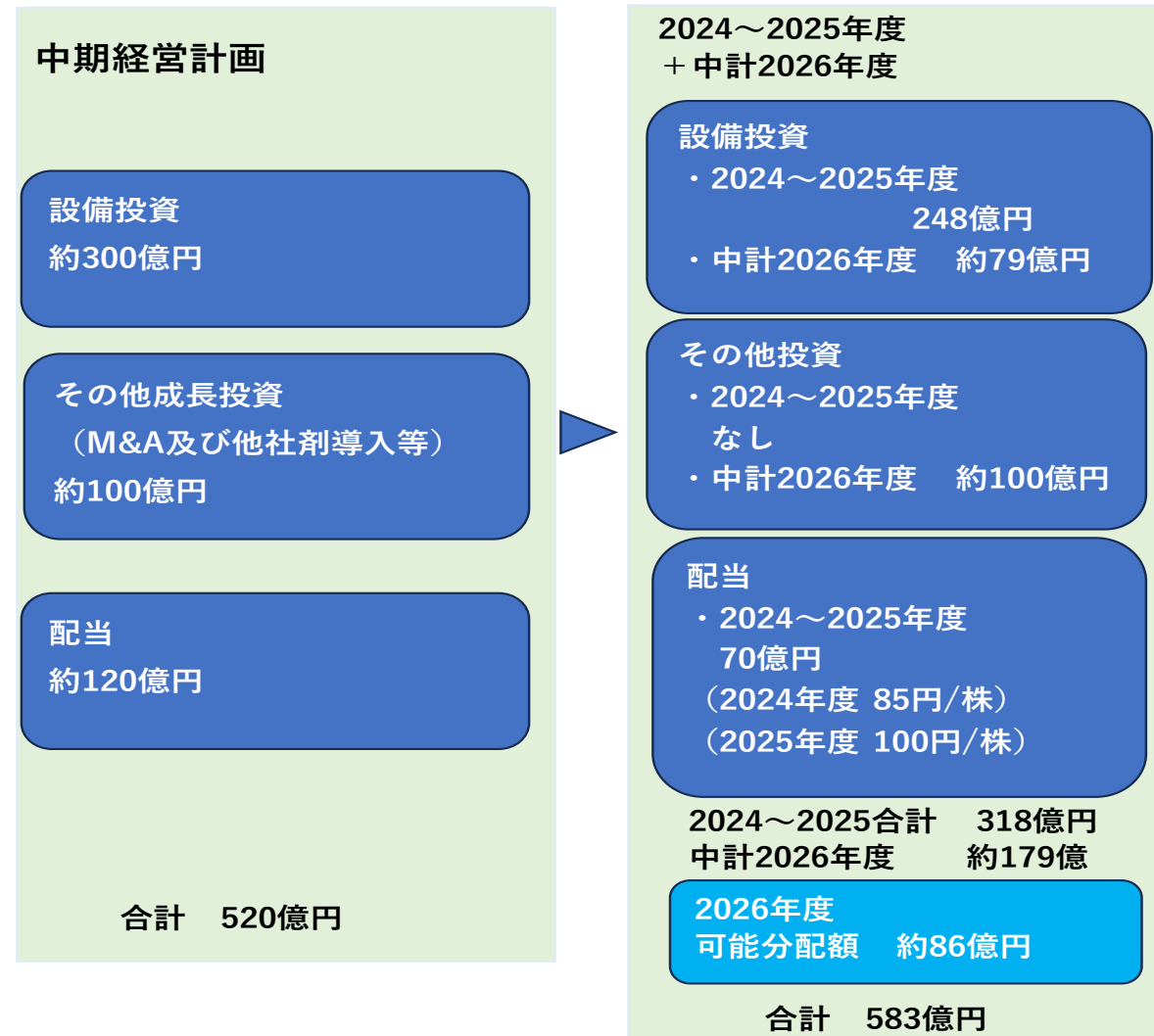
		2024 (実績)	2025 (中計)	2025 (予想)
有機化学事業	売上高	677	696	726
	営業利益	104	117	118
無機化学事業	売上高	732	787	710
	営業利益	△5	49	30
その他	売上高	41	27	34
	営業利益	5	1	2
合計	売上高	1,451	1,510	1,470
	営業利益	104	167	150

Vision 2030 Stage II (2024~2026年度) 進捗状況

キャピタルアロケーション ~ 営業キャッシュインは順調に推移 キャッシュ・イン



キャッシュ・アウト

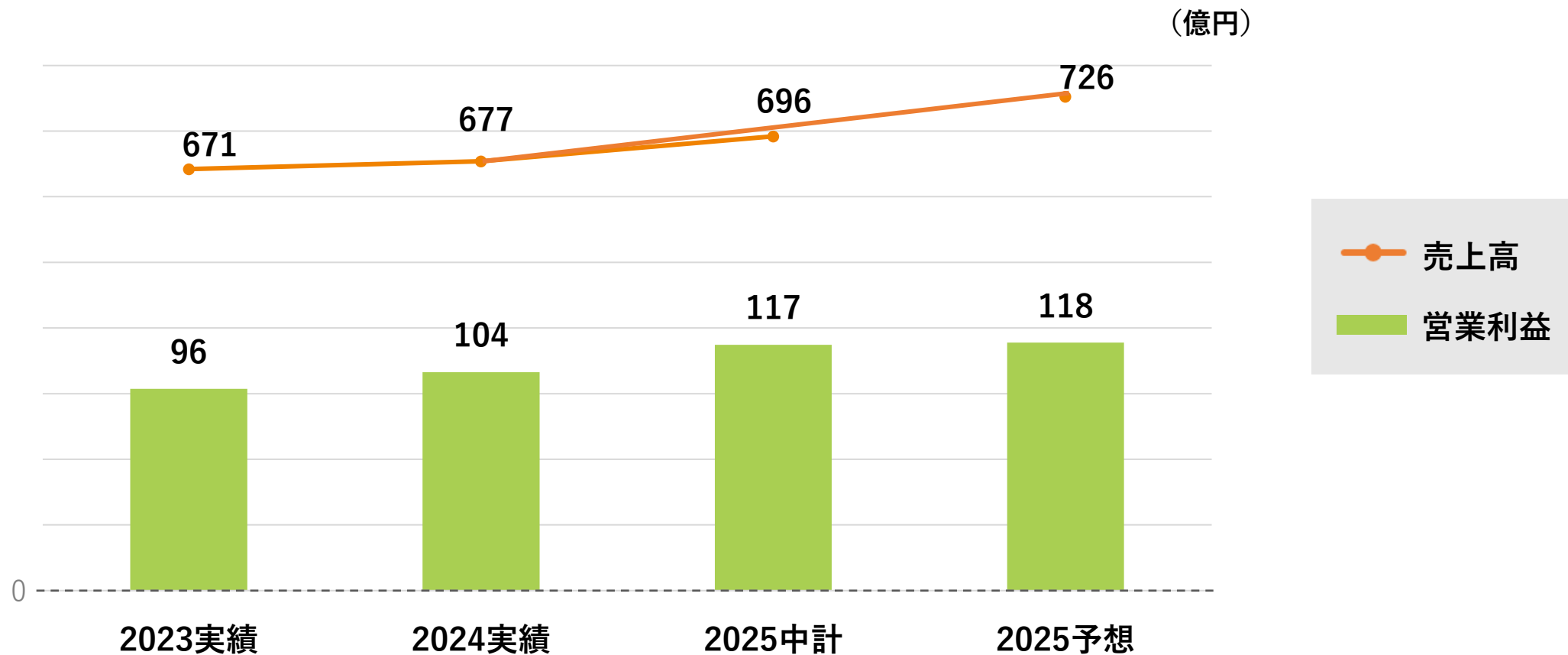


	2023 (実績)	2024 (実績)	2025 (中計)	2025 (予想)
1株当たり当期純利益（円）	209.2	219.9	269.3	240.4
自己資本利益率（ROE）	7.9%	7.6%	9.1%	7.9%
年間配当金（円/株）	70	85	100～105	100
配当性向	33.4%	38.6%	37.1～39.0%	41.6%
連結株主資本配当率（DOE）	2.7%	3.1%	3.3～3.4%	3.5%
総資産営業利益率（ROA）	5.4%	4.7%	7.2%	6.4%
売上高営業利益率	8.3%	7.2%	11.1%	10.2%
自己資本比率	47.3%	50.8%	48.7%	49.5%

事業別 業績概要

有機化学事業 業績計画

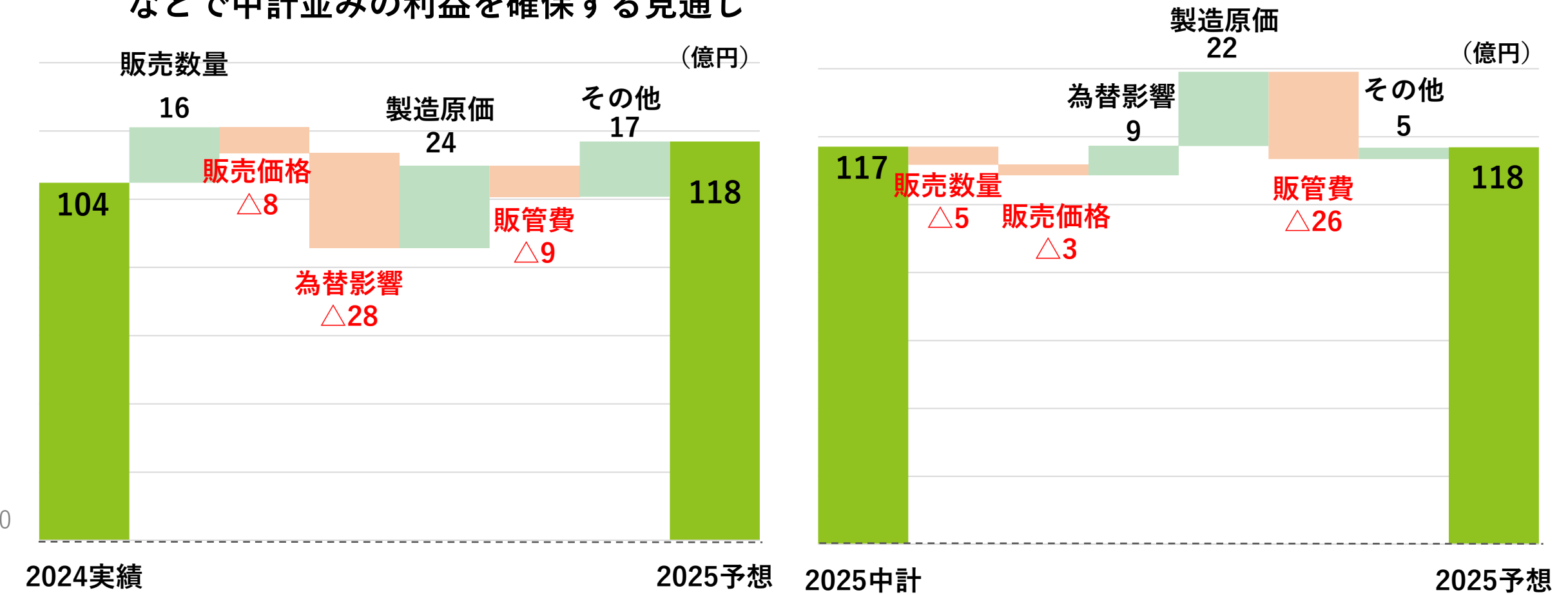
- ◆前年度と比べて、米州、アジアで除草剤の販売が好調。
- ◆中計と比べて、米州で除草剤、欧州で殺虫剤、殺菌剤の販売が好調。



有機化学事業 営業利益増減要因



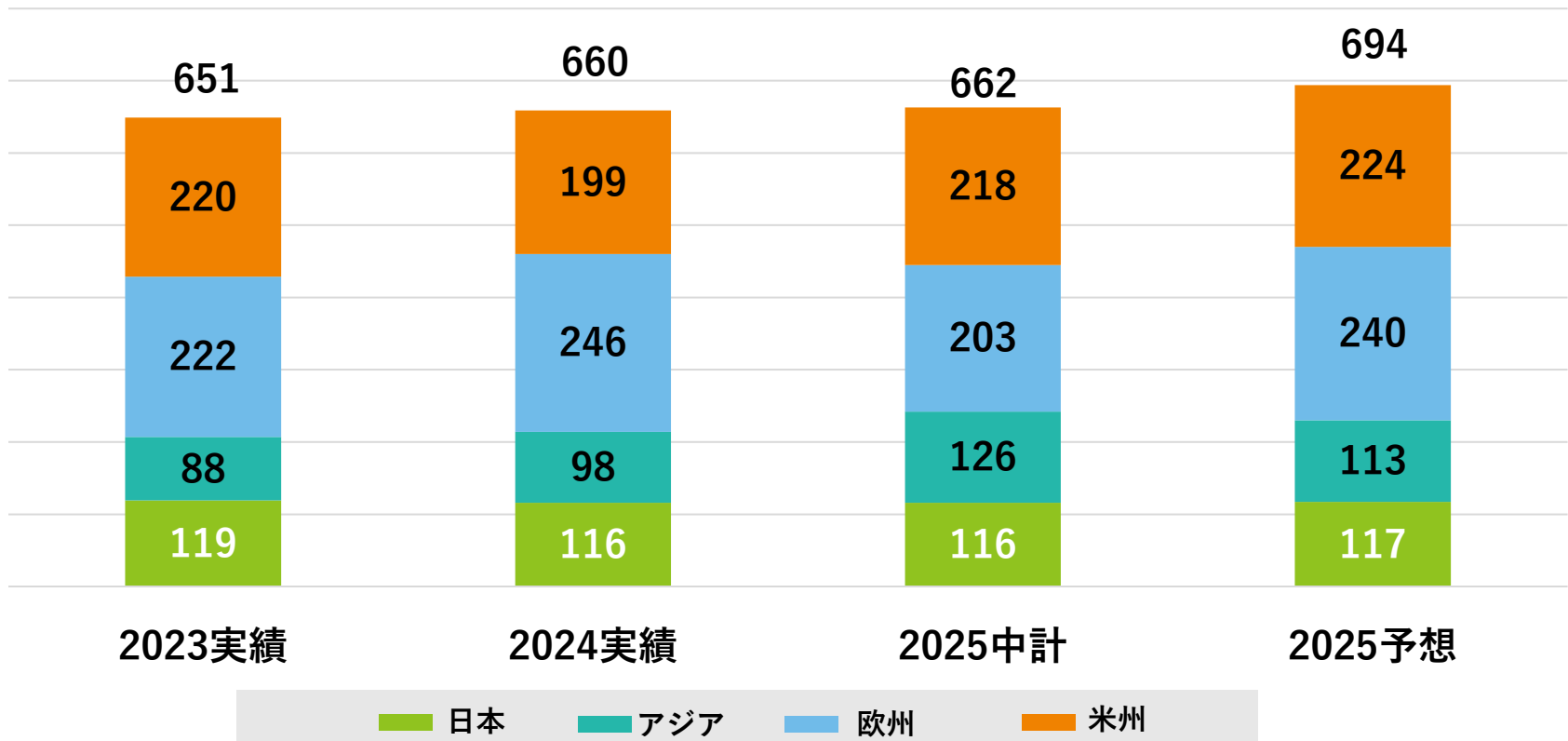
- ◆前年度と比べて円高による減益要因があるが、販売増や製造コスト改善でカバーし増益の見通し。
- ◆中計と比べて研究開発費等の増加が利益を圧迫するものの、製造コスト改善などで中計並みの利益を確保する見通し



農薬 地域別販売計画

- ◆前年度と比べて、米州、アジア向け販売が好調。
- ◆中計と比べて、欧州向け販売が好調。

(億円)

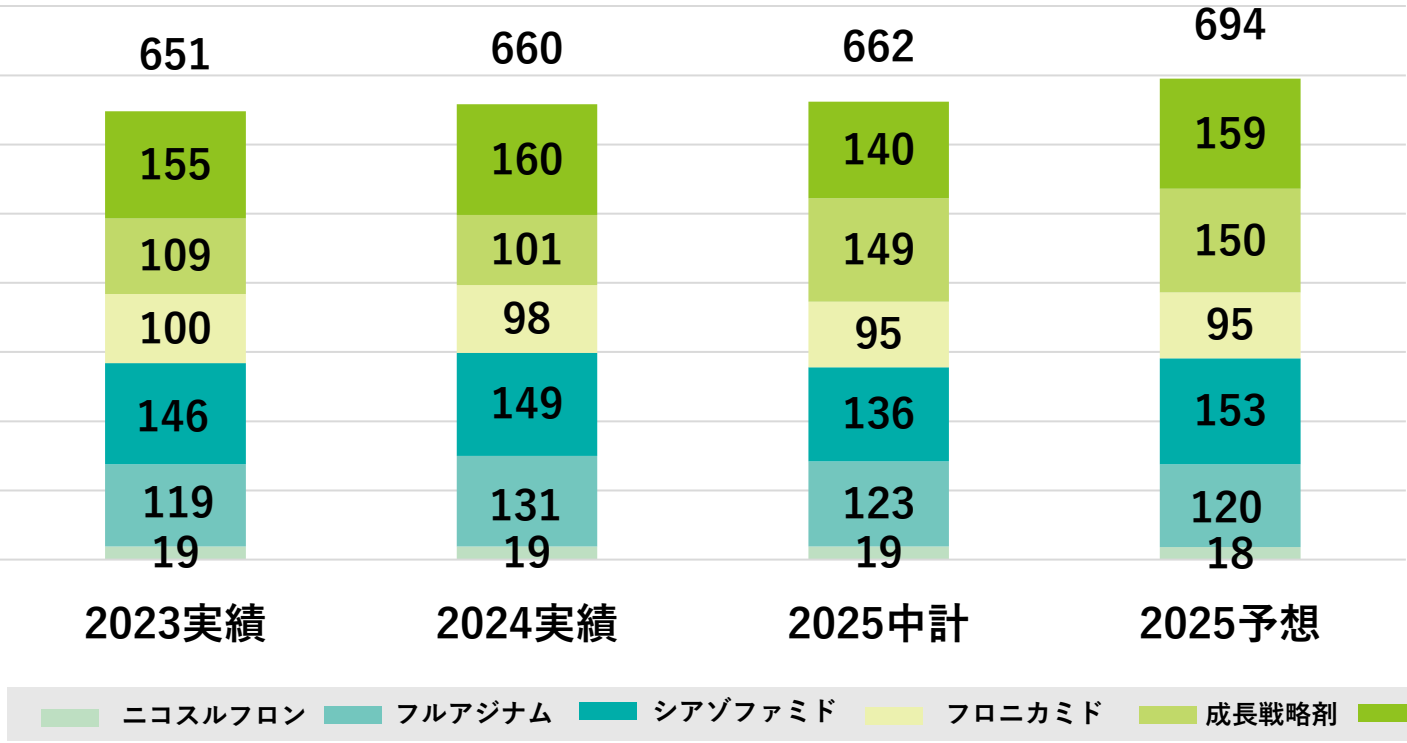


※アジアには大洋州を含む。

農薬 剤別販売計画

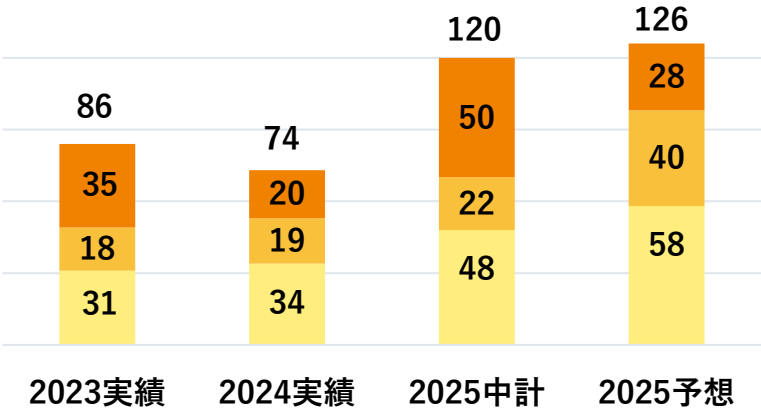
- ◆前年度対比、中計対比ともに増収の見通し。
- ◆成長戦略3剤は、中計と比べて除草剤チアフェナシルが減収となるものの、除草剤トルピラレートは米州、殺虫剤シクラニリプロールはアジアで増収の見通し。

(億円)



成長戦略3剤

(億円)

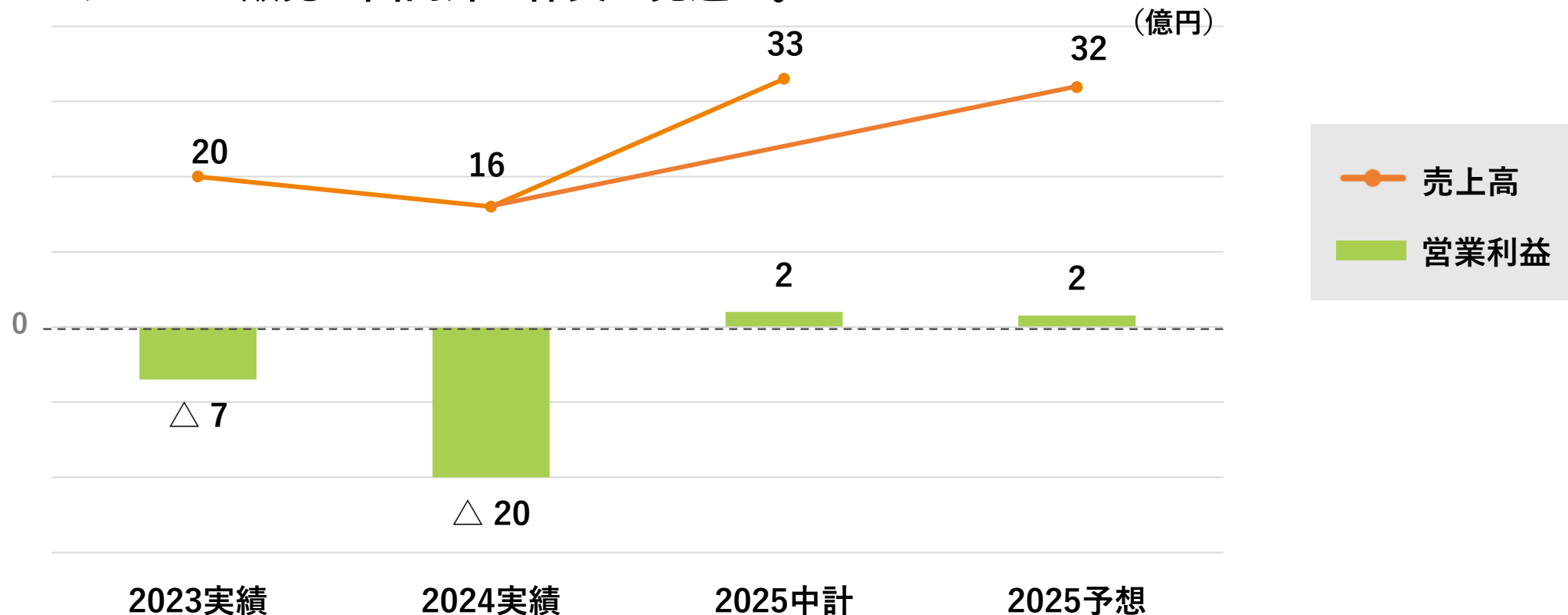


■ トルピラレート
 ■ シクラニリプロール
 ■ チアフェナシル

ヘルスケア 業績計画

有機化学事業

- ◆2025年度より営業黒字に転換の見通し。
- ◆動物用医薬品の研究開発費は2024年度がピーク。2025年度から減少に転じる見通し。
- ◆パノクエルの販売が国内外で伸長の見通し。



石原産業の成長戦略剤／除草剤トルピラレートのご紹介

トルピラレートは当社の成長戦略剤5剤の中心的役割を果たす大型除草剤です。本剤は2017年に米国で単剤の販売を開始して以降、日本、アルゼンチン、メキシコ、チリ、フィリピン、カナダ、韓国、米国、ブラジルに販売地域を拡大してきました。昨年はウクライナで販売を開始した他、引き続き、中南米、アジア、オセアニア各国で開発を進めており2026年に約60億円の販売を目指しています。

特長

- 生育期の雑草に低薬量で優れた除草効果
- 世界的に問題となっているグリホサート抵抗性雑草に優れた効果
- とうもろこしの系統や品種に関わらず安全に使用できる

米国での圃場試験



トルピラレート30g/ha



慣行防除剤散布区



無処理区

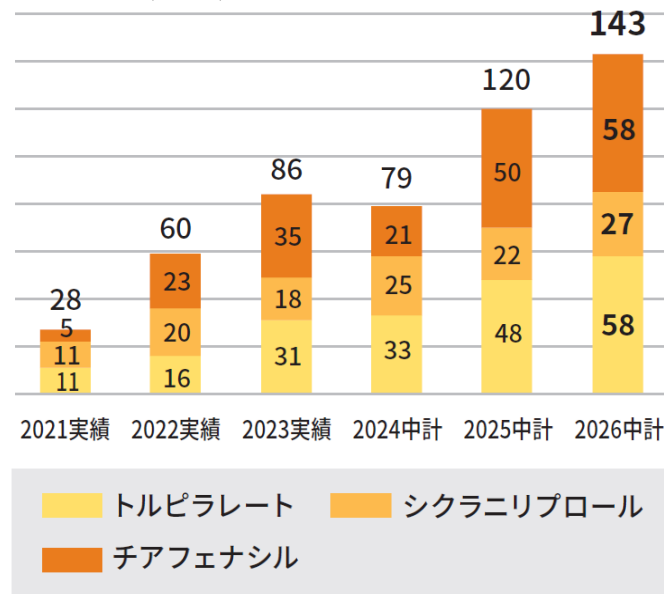
米国 York, NE. 散布: 6月 24日(トウモロコシ:4-5葉期)

成長戦略

- 混合剤の開発： 当社除草剤ニコスルフロンとの混合剤を含め、複数の混合剤を開発し販売を始めています。
- 適用作物の拡大： とうもろこし以外の大型畑作物として麦類での商業化を進めています。麦類用の製品は2023年に北米で販売が始まりました。今後、他の地域の麦類にも販売を拡大していく予定です。

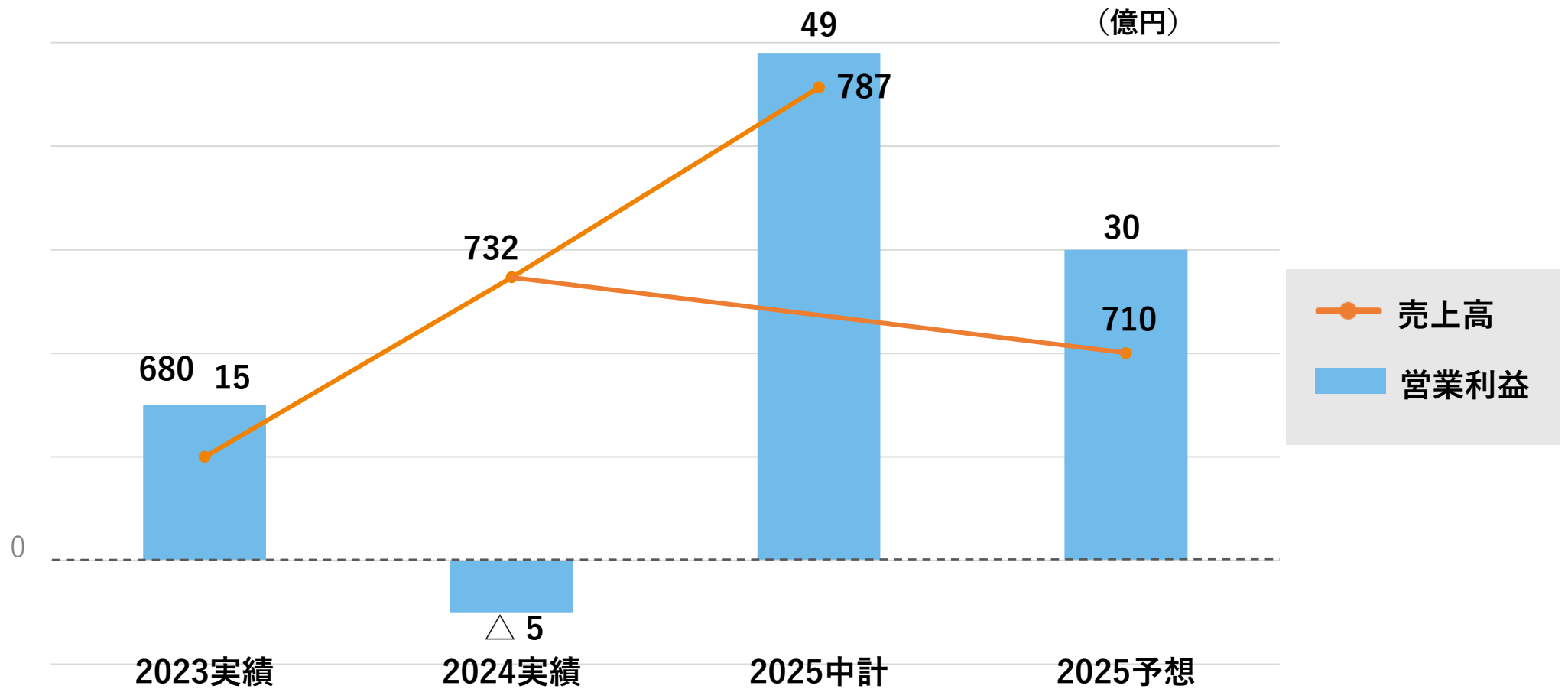
販売目標

販売金額(億円)



無機化学事業 業績計画

- ◆製品在庫の消化が進み、前年度と比べて収益改善の見通し。
- ◆ファインケミカル(酸化チタン) は中計の想定には届かない見通しだが、無機化学事業全体としては大きく改善する見通し。

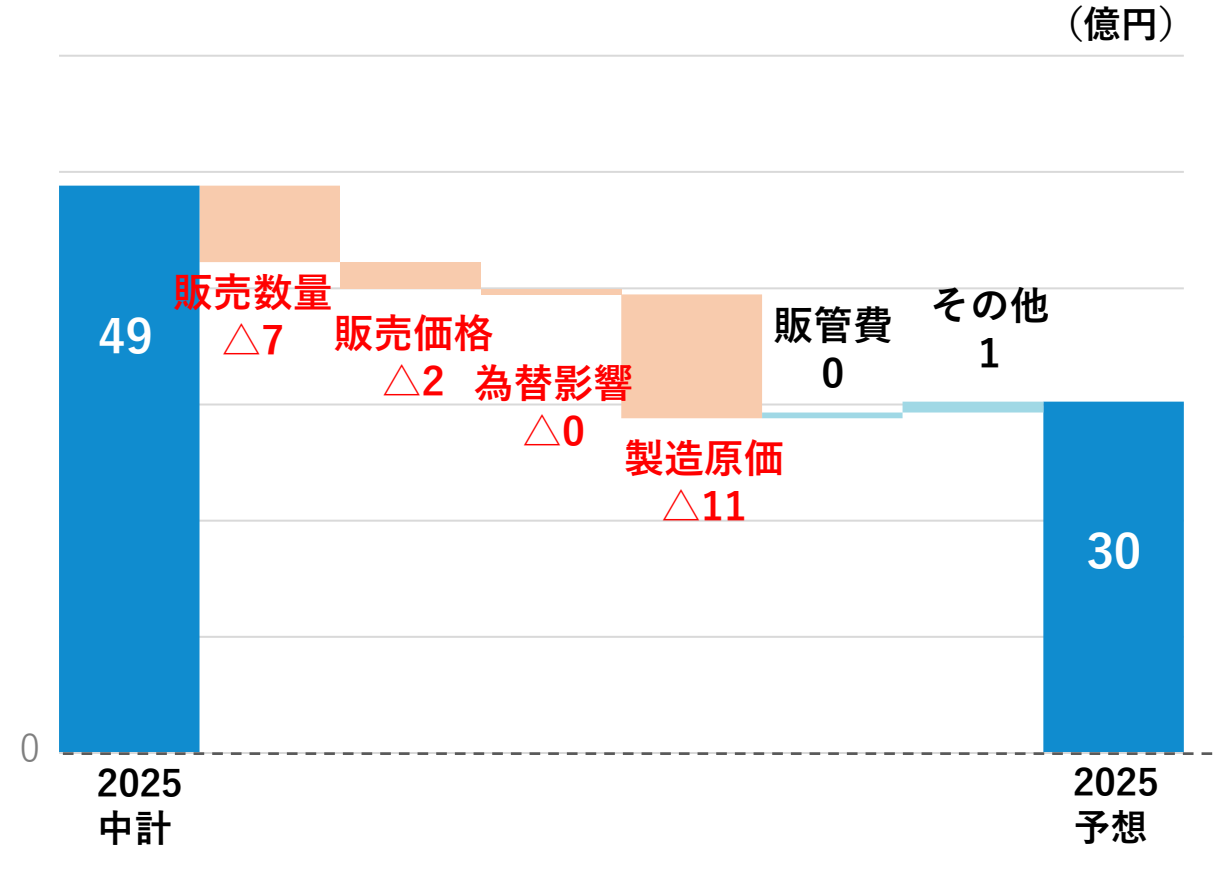
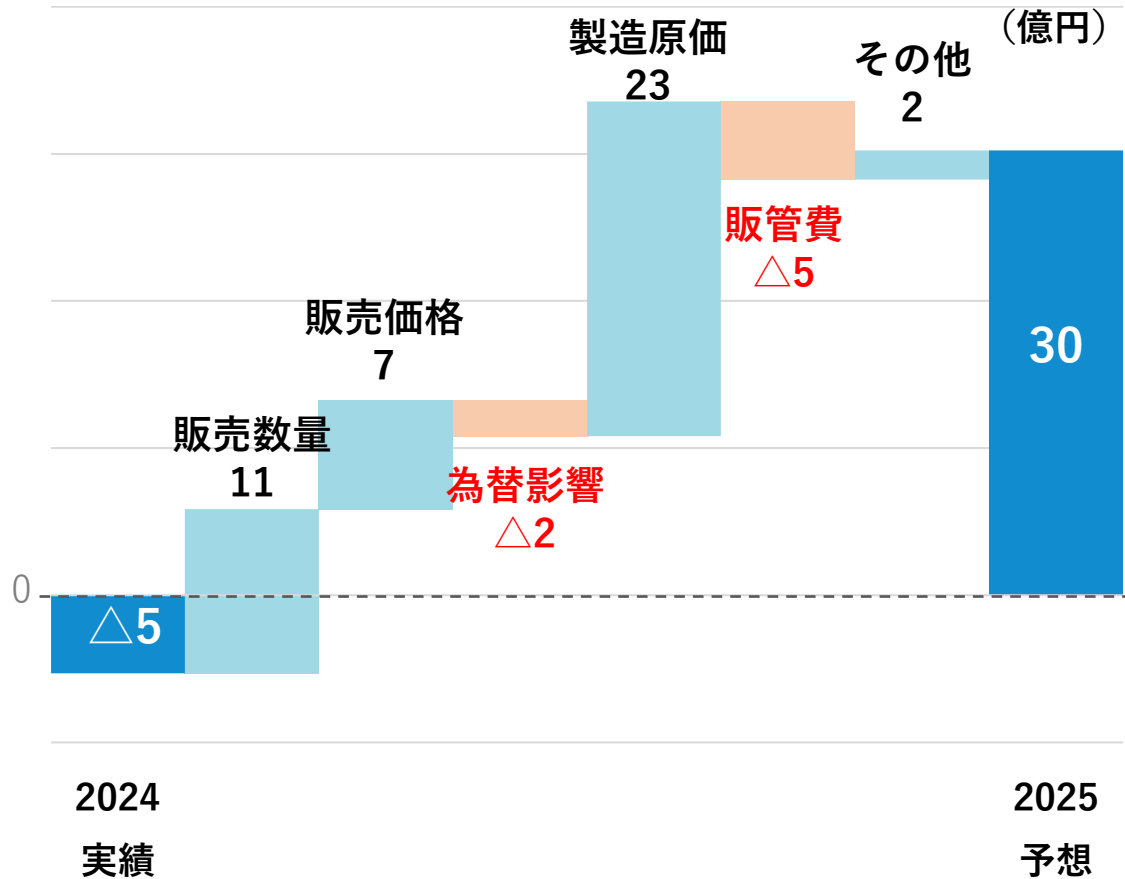


無機化学事業 営業利益増減要因

無機化学事業

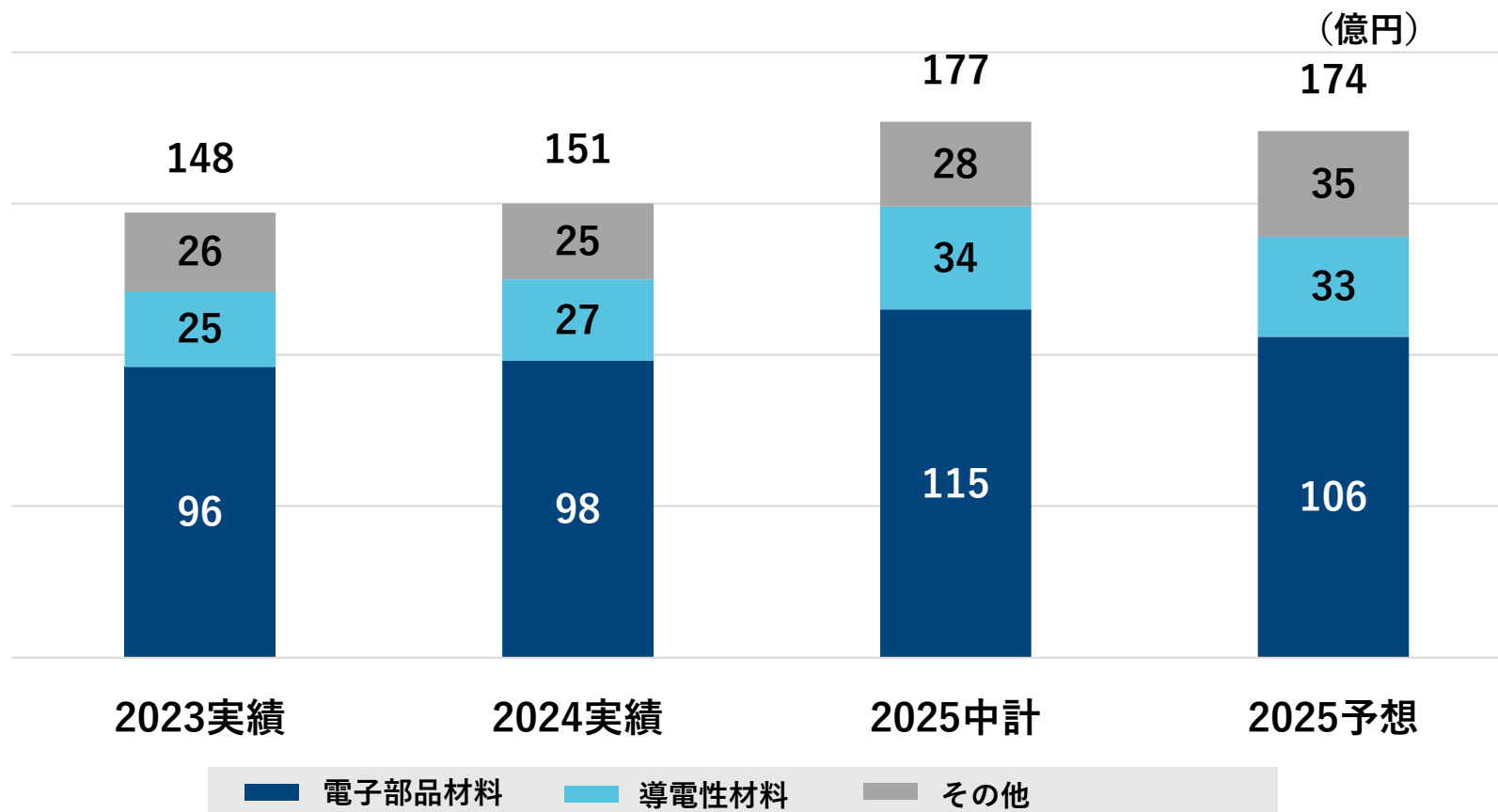
◆在庫の適正化を目的とした拡販がなくなったことから、前年度と比べて収益改善、黒字化達成。

◆中計に対しては操業度を絞ったことによる固定費負担増で利益は未達成。

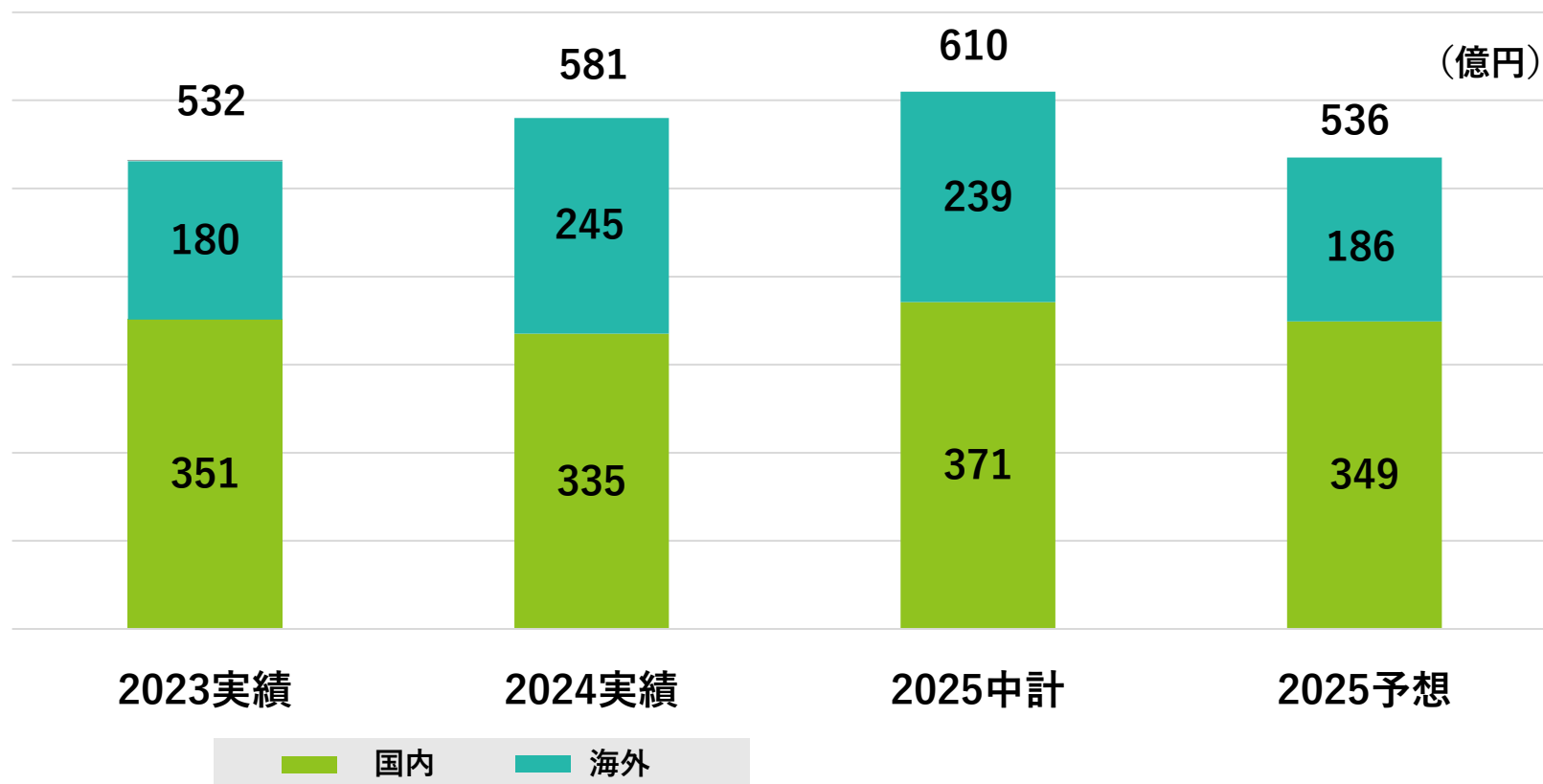


電子材料・機能性色材 材料別販売計画

◆電子部品材料の販売は、国内販売は前年度の落ち込みから緩やかに回復の見通し。海外販売は堅調。

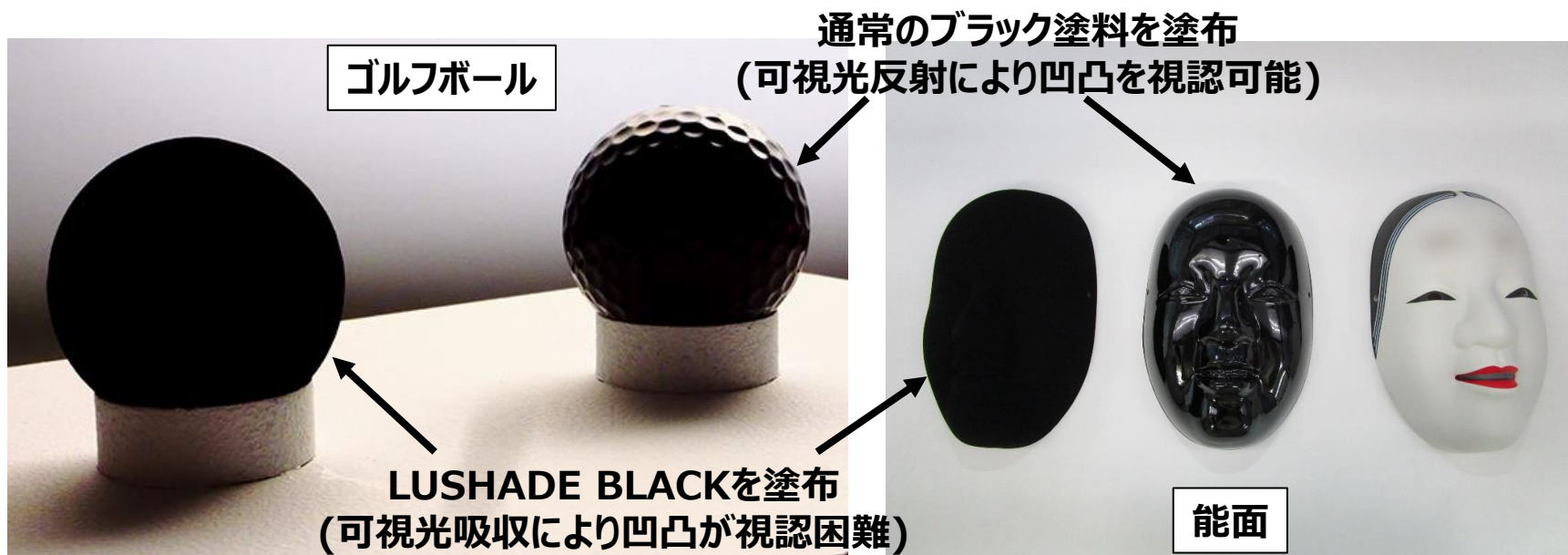
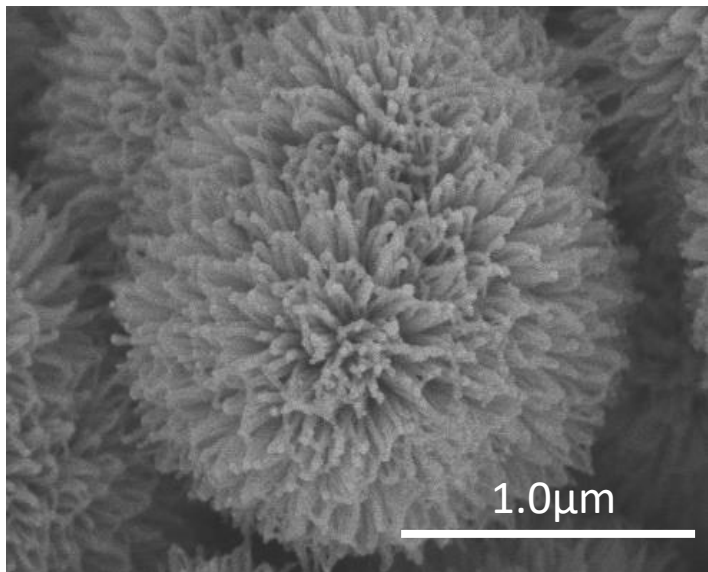


- ◆国内販売は建築用途向けを中心に需要が低迷。
- ◆海外販売はアジア向け市況低迷に加え、前年度の在庫の適正化を目的とした拡販がなくなったことで売上は減少も収益は改善。



LUSHADE® BLACK の開発と応用

当社の独自技術により合成されたウニ棘状構造を有する硫化ビスマス黒色顔料であり、1%以下という超低反射率を示す。現在は、開発段階から実機生産段階に移行途中であり、試験販売を開始している。



- ・ウニ棘状構造を有する硫化ビスマス粒子
 - ・一次粒径：1.0～1.5μm
 - ・均一な粒度
 - ・顔料分散体で供給(塗料化が容易)
- 超低反射率構造漆黒顔料 LUSHADE® BLACK (ルシェイド ブラック) | 石原産業株式会社
- ↑ LUSHADE BLACKのランディングページのリンクです。是非ご覧ください。→



LUSHADE® BLACK

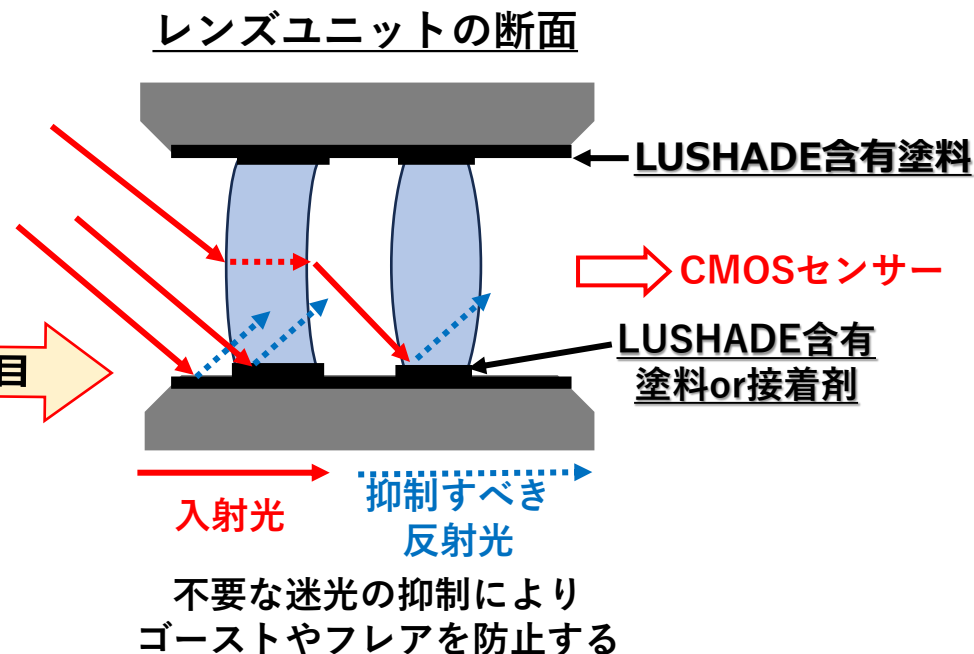
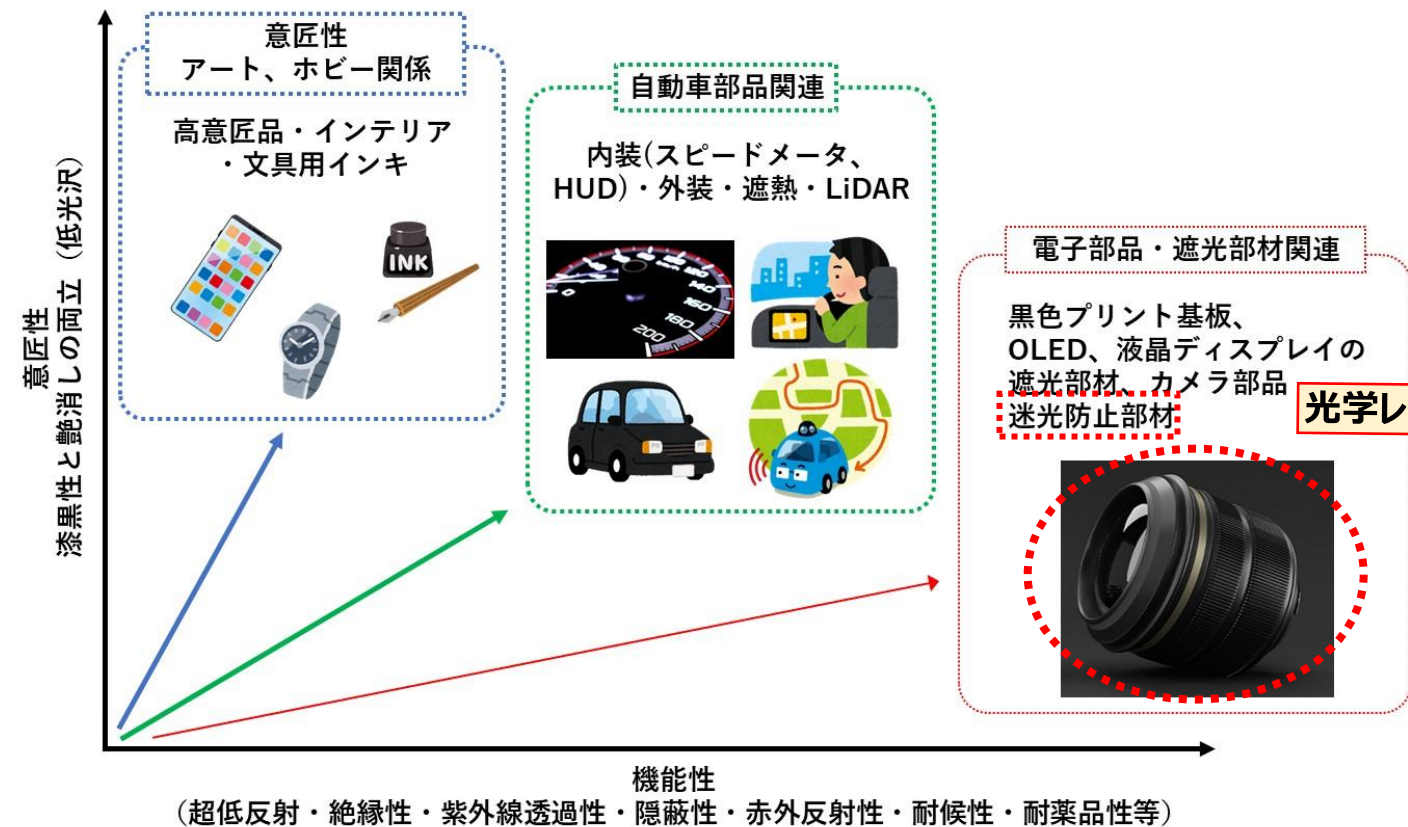
LUSHADE® BLACK の開発と応用

LUSHADE®
BLACK

ISK 石原産業株式会社

無機化学事業

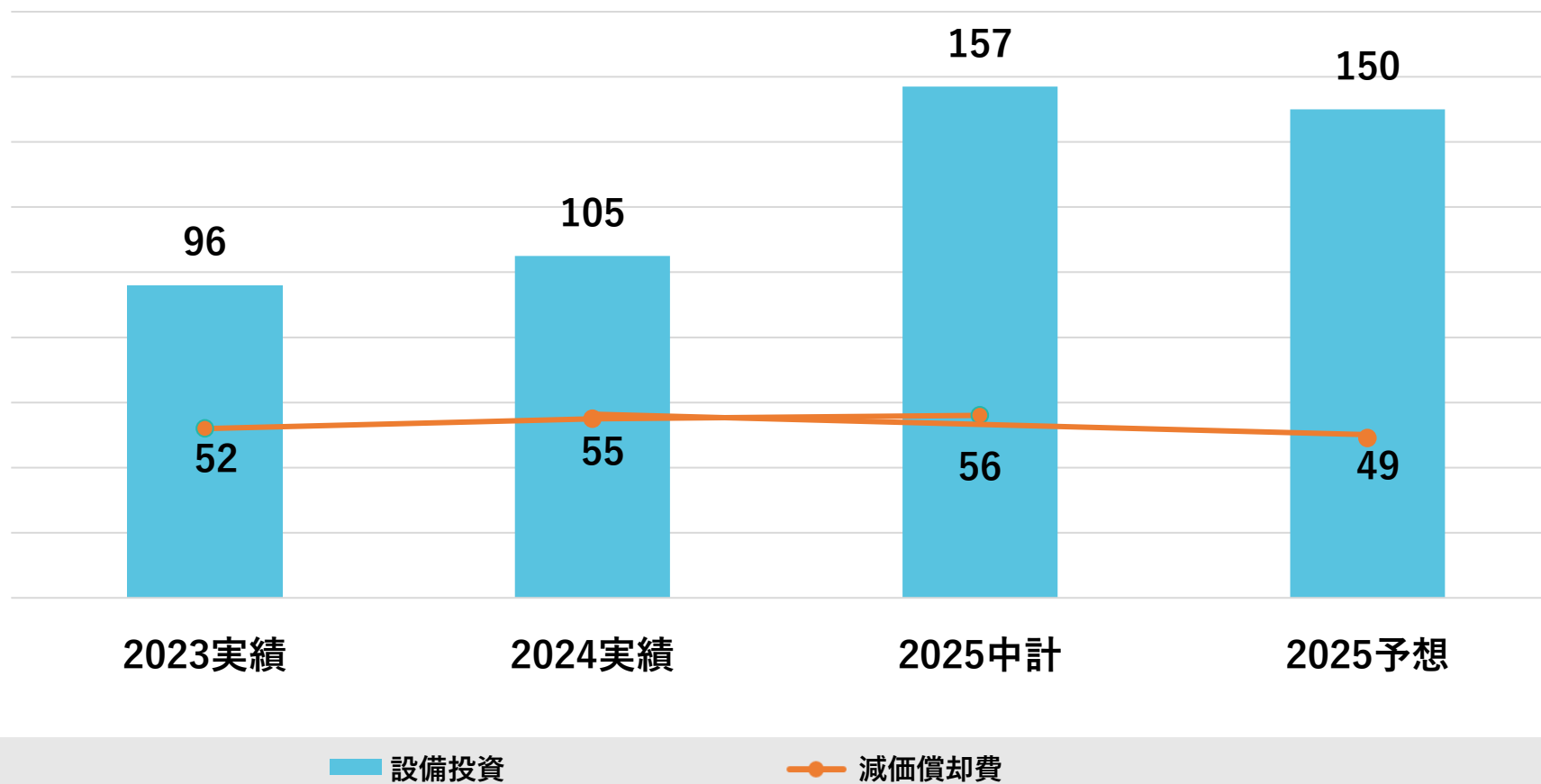
マーケティング展開中の用途



付属資料

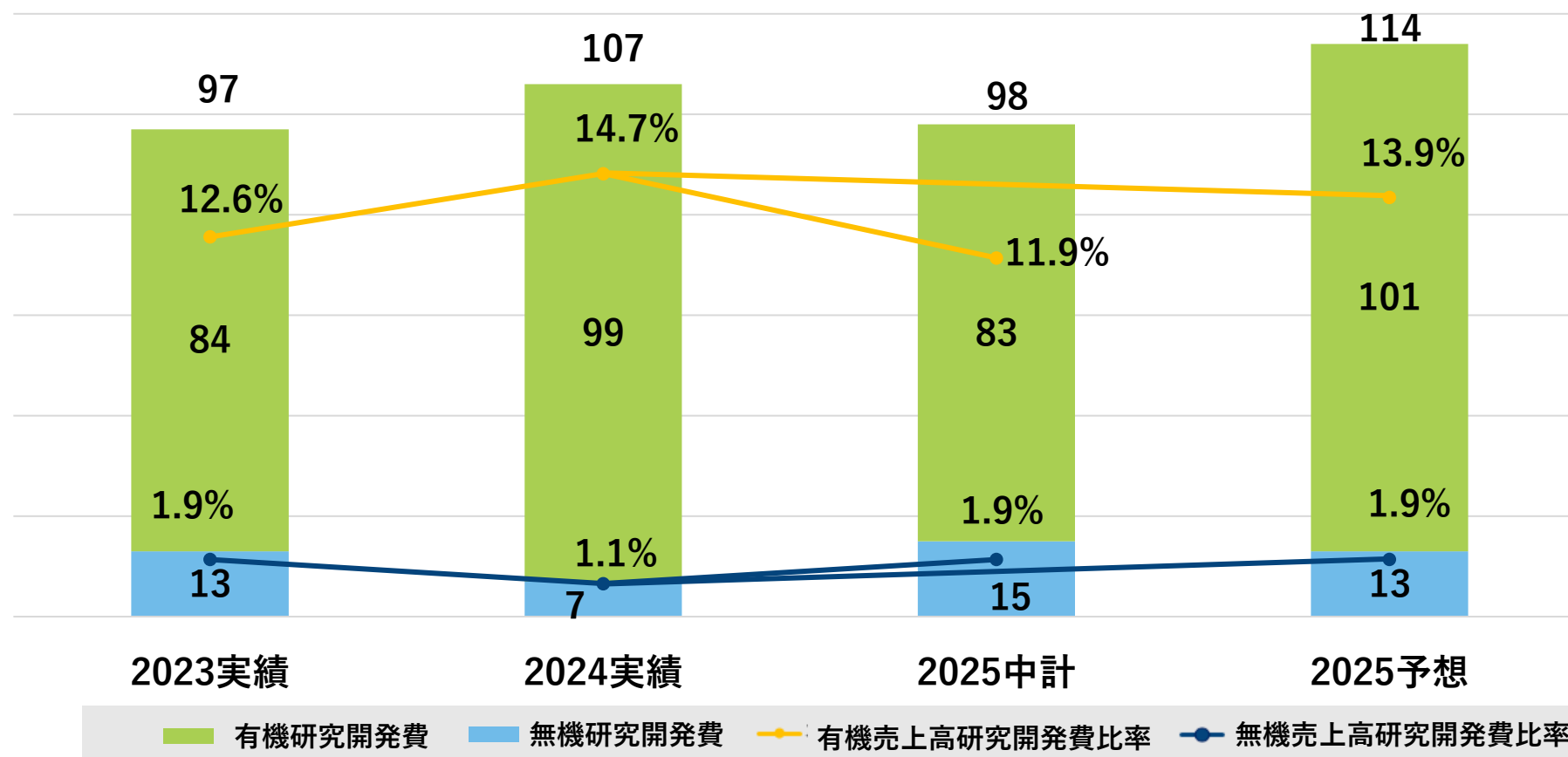
設備投資・減価償却費

- ◆2025年度予想の設備投資額150億円の内、
ひょうご小野研究センターで44億円、
子会社のMFマテリアル(株)延岡工場Ⅱ期工事で43億円を設備投資を計画。 (億円)



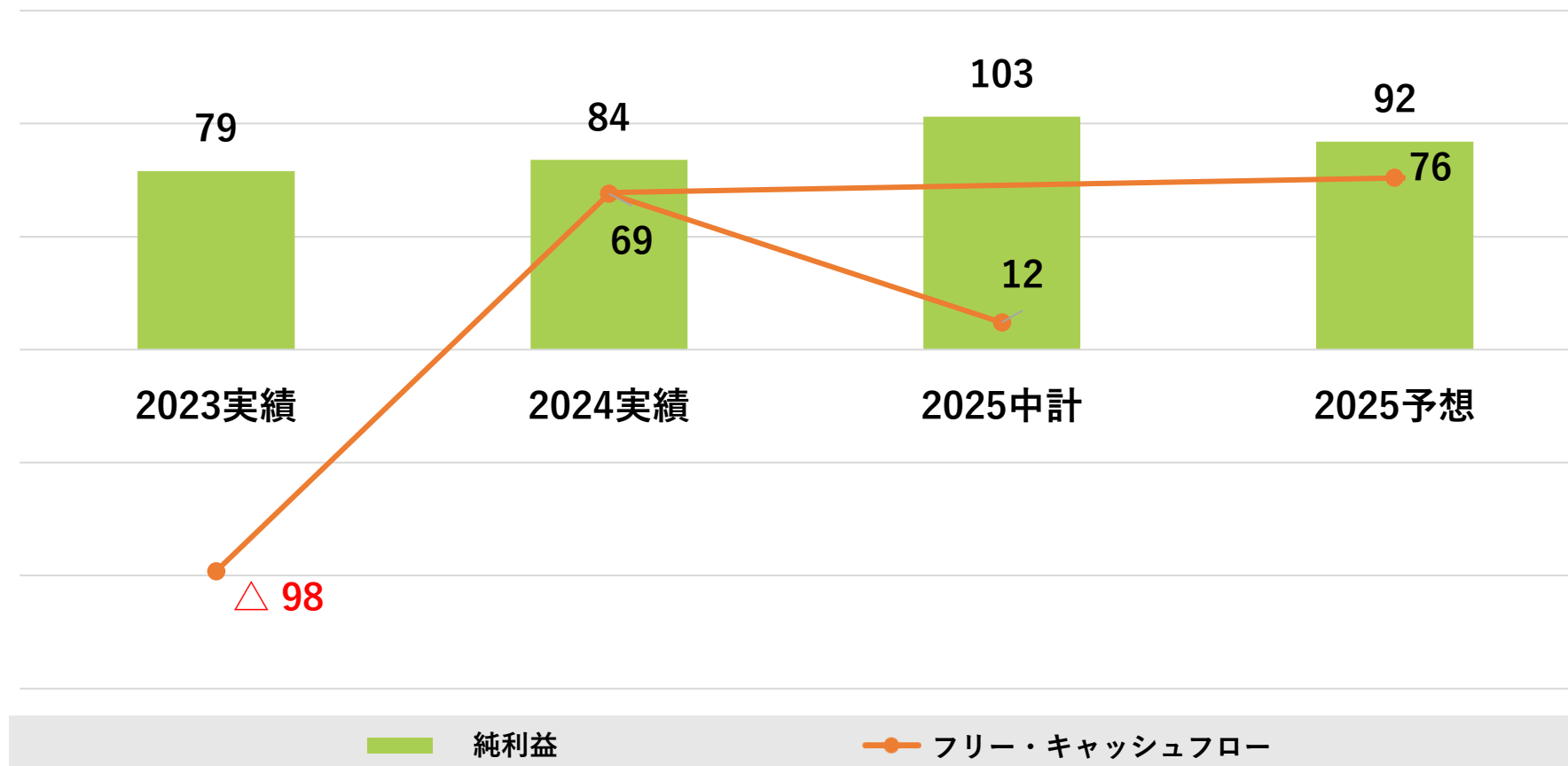
研究開発費

- ◆ヘルスケアの研究開発費は、2024年度をピークに減少に転じる見通し。
 - ◆農薬は欧州での登録維持のための費用が一時的に増加（+15億円の見込み）。
- (億円)

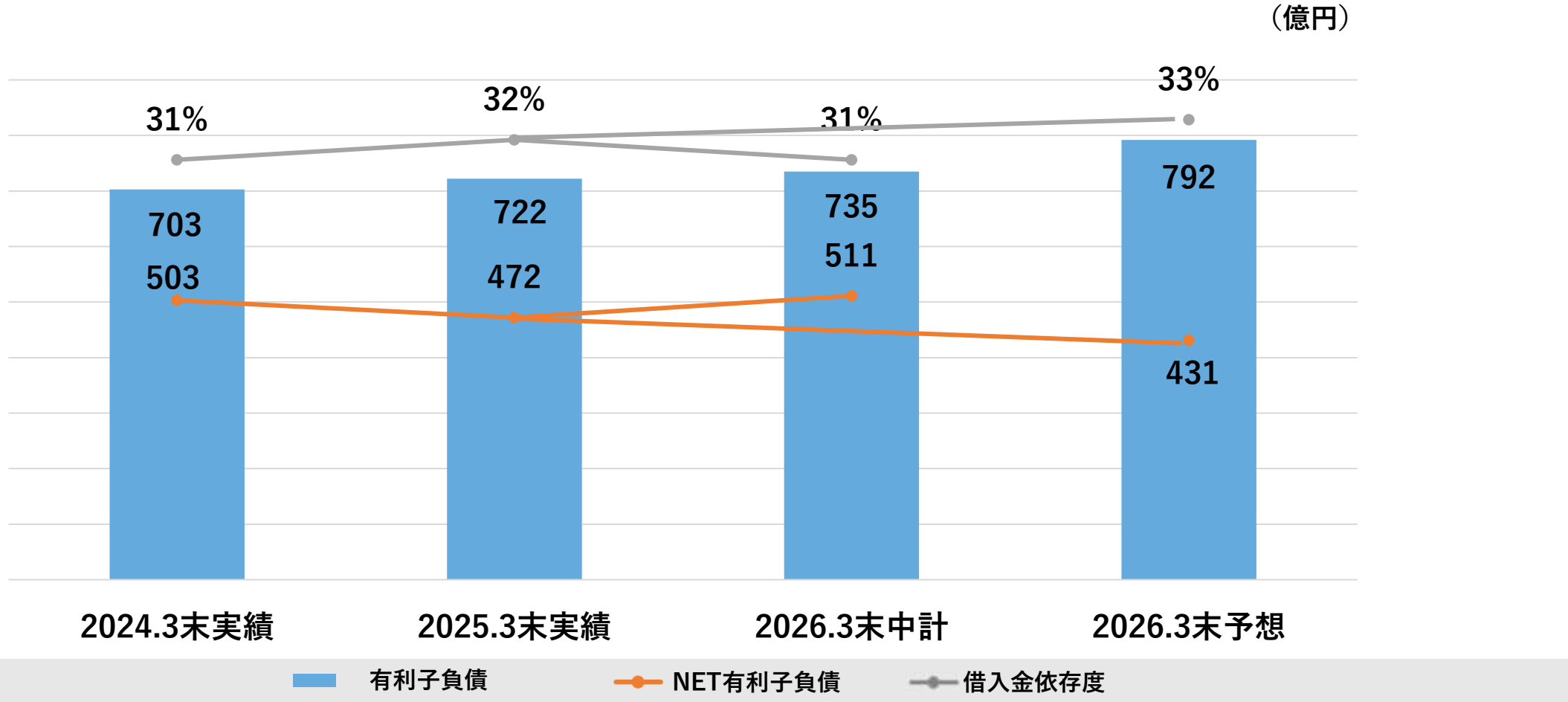


フリー・キャッシュフロー

(億円)



有利子負債残高



完

- ・将来見通しに関わる記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料には、公表時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。日本及び海外の経済情勢・需要動向・競合状況・為替の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。